第５回　国際標準化対応支援委員会／運営委員会　国際会議補助報告書

資料 No.	＜SC3C 関係＞国際会議報告書
5-3／SC3C-①	SC3C「機器・装置用図記号」パリ会議報告書　20071119－20071122
資料 No.	＜SC3D 関係＞国際会議報告書
5-3／SC3D-①	SC3D「電子部品ライブラリ」パリ会議報告書 20071119-20071123
資料 No.	＜TC47 関係＞国際会議報告書
5-3／TC47-①	TC47、WG2、PT62258「半導体デバイス」トゥールーズ会議報告書 20071105-20071109
資料 No.	＜SC47A 関係＞国際会議報告書
5-3／SC47A-①	SC47A/WG2「集積回路/デジタル IC」トゥールーズ会議報告書 20071107－20071108
5-3／SC47A-②	SC47A/WG9、「集積回路/EMC 測定法」トゥールーズ会議報告書 20071105－20071106
5-3／SC47A-③	SC47A、WG2、WG9「集積回路」トゥールーズ会議報告書 20071105－20071109
資料 No.	＜SC47D 関係＞国際会議報告書
5-3／SC47D-①	SC47D、WG1、WG2「半導体パッケージ外形標準化」トゥールーズ国際会議報告書 20071107-20071108
5-3／SC47D-②	SC47D/WG1「半導体パッケージ外形標準化」トゥールーズ国際会議報告書 20071107-20071108
5-3／SC47D-③	SC47D/WG2「半導体パッケージ外形標準化」トゥールーズ国際会議報告書 20071107-20071108
資料 No.	＜SC47E 関係＞国際会議報告書
5-3／SC47E-①	SC47E&SC47E/WG1、WG2、WG3、WG4「個別半導体&半導体センサー、マイクロ波デバイス、パワーデバイス、フォトカップラ及びソリッドステートリレー」トゥールーズ会議報告書 20071105-20071109
5-3／SC47E-②	SC47E「個別半導体」ニューオーリンズ会議報告書 20071129
資料 No.	＜SC48B 関係＞国際会議報告書
5-3／SC48B-①	SC48B「コネクタ」プラハ会議報告書　20071015－20071019
資料 No.	＜SC48D 関係＞国際会議報告書
5-3／SC48D-①	TC48、SC48D、SC48D/WG2、WG4「電子機器の機械的構造」プラハ会議報告書 20071016-20071019
資料 No.	＜SC62A 関係＞国際会議報告書
5-3／SC62A-①	SC62A/MT23「医療機器共通事項 EMC」アンドーバ会議報告書 20071015-20071019
5-3／SC62A-②	SC62A/JWG6「在宅医療機器」ワシントン会議報告書 20071029-20071102
5-3／SC62A-③	SC62A/WG14「安全規格の試験」テルアビブ会議報告書 20071030-200711101
5-4／SC62A-④	SC62A/WG20「環境保護」エアランゲン会議報告書 20071203-20071205
資料 No.	＜SC62D 関係＞国際会議報告書
5-3／SC62D-①	SC62D/MT16「医用電子機器／内視鏡」リューベック会議報告書 20071105-20071107
5-3／SC62D-②	SC62D/JWG7「医用電子機器／非観血血圧計」タンパ会議報告書 20071203-20071205
資料 No.	＜TC87 関係＞国際会議報告書
5-3／TC87-①	TC87「超音波」三浦郡葉山町国際会議日本開催報告書 20071015-20071019
5-3／TC87-②	TC87「超音波」三浦郡葉山町国際会議日本開催経費収支報告書 20071015-20071019

資料 No.	＜TC91 関係＞国際会議報告書
5-3／TC91-①	TC91/WG1「電子実装技術」 ソウル IEC 国際会議出席報告書(土生) 20071017
5-3／TC91-②	TC91/WG2「電子実装技術」 ソウル IEC 国際会議出席報告書(梅垣) 20071016-20071017
5-3／TC91-③	TC91/WG3「電子実装技術」 ソウル IEC 国際会議出席報告書(春日) 20071017-20071018
5-3／TC91-④	TC91/WG12「電子実装技術」 ソウル IEC 国際会議出席報告書(山内) 20071016
5-3／TC91-⑤	TC91/PT62468「電子実装技術」 ソウル IEC 国際会議出席報告書(潮) 20071016
5-3／TC91-⑥	TC91/Plenary「電子実装技術」 ソウル IEC 国際会議出席報告書(西山) 20071019
資料 No.	＜TC100 関係＞国際会議報告書
5-3／TC100-①	TC100/AGS「戦略諮問会議」 アルザス会議報告書 20071008-20011012
5-3／TC100-②	TC100/GMT「総合メインテナンス会議」 アルザス会議報告書 20071009
5-3／TC100-③	TC100/Plenary「総会」 アルザス会議報告書 20071012
資料 No.	＜TC100/TA1＞国際会議報告書
5-3／TC100TA1-①	TC100/TA1「放送用エンドユーザ機器」 アルザス会議報告書 20071011-20071011
資料 No.	＜TC100/TA2＞国際会議報告書
5-3／TC100TA2-①	TC100/TA2「色彩測定及びカラーマネジメント」 アルザス会議報告書 20071010-20071011
資料 No.	＜TC100/TA4 関係＞国際会議報告書
5-3／TC100TA4-①	TC100/TA4「デジタルシステムインタフェース&プロトコル」 アルザス会議報告書　20071011
資料 No.	＜TC100/TA5＞国際会議報告書
5-3／TC100TA5-①	TC100/TA5「ケーブルネットワーク」 アルザス会議報告書 20071008-20071012
資料 No.	＜TC100/TA6 関係＞国際会議報告書
5-3／TC100TA6-①	TC100/TA6「放送・業務用ストレージ」 アルザス会議報告書 20071008-20071012
資料 No.	＜TC100/TA7 関係＞国際会議報告書
5-3／TC100TA7-①	TC100/TA7「民生用ストレージ」 アルザス会議報告書 20071008-20071012
資料 No.	＜TC100/TA8＞国際会議報告書
5-3／TC100TA8-①	TC100/TA8「マルチメディアホームサーバシステム」 アルザス会議報告書 20071008-20071012
資料 No.	＜TC100/TA10 関係＞国際会議報告書
5-3／TC100TA10-①	TC100/TA10「マルチメディア電子出版及び電子書籍」 アルザス会議報告書 20071011
資料 No.	＜TC110 関係＞国際会議報告書
5-3／TC110-①	TC110/WG2&WG4「フラットパネルディスプレイ」 札幌会議経費収支報告書 20071203－20071204
5-3／TC110-②	TC110/WG2&WG4「フラットパネルディスプレイ」 札幌会議報告書 20071203－20071204
資料 No.	＜CISPR 関係＞国際会議報告書
5-3／CISPR-①	CISPR SC I 「マルチメディア機器に関する EMC」 シドニー国際会議報告書 20070917-20070919
資料 No.	＜SC31 関係＞国際会議報告書
5-3／SC31-①	SC31/WG3/SG1 & WG4/SG3「自動認識及びデータ取得技術」 アクサンプロバンス会議報告書 20071112-20071114

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／SC3C-①**（事務局記入）

国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 12 月 12 日

（報告者記載）整理番号：H19SC3C①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：堀本佳成　報告書作成者氏名：堀本佳成　（会社名）日本電気（株）/ＮＥＣデザイン

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	ＳＣ３Ｃ (半角)
SC3C	☒ＴＣ ☒ＳＣ ☐ＴＡ ☐ＷＧ ☐ＰＴ ☐その他		
	☐ＴＣ ☐ＳＣ ☐ＴＡ ☐ＷＧ ☐ＰＴ ☐その他	名　称 (日本語)	機器・装置用図記号
	☐ＴＣ ☐ＳＣ ☐ＴＡ ☐ＷＧ ☐ＰＴ ☐その他		
	☐ＴＣ ☐ＳＣ ☐ＴＡ ☐ＷＧ ☐ＰＴ ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2007 年 11 月 19 日 ～ 2007 年 11 月 22 日		
開催場所	（国名）フランス	（都市名）パリ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	中村(Japan) /池田(Japan)	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	5ヶ国、主な国名 フィンランド、フランス、ドイツ、日本、イギリス、参加人数 (9)		
日本人出席者 (会社名)	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] (○)堀本 佳成/中村 祐二 /池田 宏明 /毛利 元也		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

⑴ IEC 60417及びISO 7000共通database出版に関する報告　図記号分類についてPhase 1の内容を確認。結論としてJWG11に計画の改善案を配布するよう、幹事に要請する。IEC 60417多言語databaseのプロトタイプ（日本語版とドイツ語版）については11月21日のTC3　workshopでデモがあった。

⑵ Project Team及びTask Forceの審議

a）ＰＴ ３１　（リーダーDr. M. Kratzat）X線診断関連の10図記号である。既にIS化が決定され与えられた任が完了している。当ＰＴを解散することを決めた。

b）ＰＴ ３４　（リーダー　Mr. A. Sirvio）　“do not immerse in any liquid”　液侵禁止図記号である。RVC発行後、IS化とすることを決めた。

c）ＰＴ ３６　（リーダーDr. M. Kratzat）　“image”関連6図記号である。基本型の“Electronic image, general”図記号については既にIS化されている。関連6図記号については現在、validation投票中。

d）ＰＴ ３７　（リーダーMr. Y. Horimoto）　通信機器関連8図記号である。6図記号については既にIS化され、2図記号“Message, confidential”及び“Stamping”についてはオーストリアとドイツよりコメントがありIS化されていないことを確認。

e）Task Force（リーダー　Y.Nakamura/ F. Brigham）　二つのタスク、(1) 図記号の利用者区分、(2) 図記号共通要素の研究である。図記号共通要素の研究については既に纏めたものがあり、１１月末までに他メンバーに配布。

⑶ Extended Database Procedures案件の審議

PT 37関連の日本提案通信機器2図記号を審議し、SC3Cとして以下とすることを決定した。

(A) IEC 60417-5998 Pr “Message, confidential”

適用文が一般的すぎて、図記号の意味が不明確である。適用文を明確にさせる為　“confidential message”とはどういう意味かを記述するようにする。図記号ついては変更しない。

(B) IEC 60417-6003 Pr “Stamping”

適用文については”　On facsimile equipment. To identify the control or the indicator for marking the original to show that it has been scanned.”とする。図記号とタイトルについては変更しない。

結論としてIEC 60417-5998 Prについて、上記審議内容を取り入れPT37がFDIS化のための修正案を作成する。

⑷ 次回会議開催：

2008年10月にTC３会議に合わせてプラハで開催する。　以上

［注］: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／SC3D-①**（事務局記入）

国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 12 月 7 日

（報告者記載）整理番号：H19SC3D②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：南野典子　報告書作成者氏名：荒木純夫　（会社名）（株）ビューポイント情報科学研究所

出席会議名（半角）	区分	組織番号（TC/SC/TA）	SC3D（半角）
SC3D	□TC ☒SC □TA □WG □PT □その他		
SC3D/WG2	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他	名称（日本語）	電子部品ライブラリ
TC3	☒TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2007 年 11 月 19 日 ～ 2007 年 11 月 23 日		
開催場所	（国名）フランス	（都市名）パリ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	D. Radlay	幹事国　オランダ	
参加国及び参加人数	9ヶ国、主な国名 オランダ，ドイツ，イギリス，日本、参加人数（16）		
日本人出席者名（会社名）	［○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎（JEITA 電子）］ ○荒木純夫(ビューポイント)，村山廣(東芝)		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

IEC 61360 シリーズ全体状況の審議

61360 データベース使用料についての審議：現在 61360 データベースは無償で利用できるが，メンテナンスのための経費捻出のため，使用料を徴収すべきという意見がまとまった。

データベースの著作権の審議：使用料徴収にも関連していろいろ意見が出たが，SC3D 自体に決定権があるわけではないので，TC3 での審議の上、中央事務局への提案という形になった。

IEC SC65E（制御機器）からのデータモデル変更の提案の審議：IEC SC65E のドイツの委員から，提案内容についてのプレゼンテーションがあった。これまでの審議内容を反映し，SC3D でのこれまでの審議とすり合わせた，61360 辞書の使い勝手の向上につながる非常に洗練された内容であった。委員からも特に異論がなかったので，SC65E 提案の内容が今後の改訂で取り入れられていく事になると考えられる。

Blank Detail Specification の審議：詳細は別途 TC3 の追加の委員会として開催。SC3D 国内委員会ではネガティブなコメントが寄せられているが，今回の審議での全体的な了解事項として，TC3 で審議している PAS では，TC3 は製品規格の委員会ではないという観点から、製品規格の TC へ情報構造の基礎を提供するにとどめ，その具体的な使用方法については各製品規格の委員会で制定するということが確認された。今後も協議を継続する。来年の早い時期に次回の会議を行なう。

委員長とコンビナーの交代

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／TC47-①**（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 12 月 10 日

（報告者記載）整理番号：H19TC47①、③、⑥

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：田中政樹　報告書作成者氏名：田中政樹　（会社名）ルネサステクノロジ

出席会議名（半角）	区分	組織番号（TC/SC/TA）	TC47（半角）
TC47	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
TC47WG2	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他	名称（日本語）	半導体デバイス
PT62258	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☒PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2007 年 11 月 5 日 ～ 2007 年 11 月 9 日		
開催場所	（国名）フランス	（都市名）トゥールーズ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	米国	幹事国　韓国	
参加国及び参加人数	9ヶ国、主な国名 米国、仏、独、英国、日本、韓国、中国、和蘭、参加人数（28）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○北川秀樹(ソニー)、○和田哲明(松下電器産業、○田中 政樹(ルネサステクノロジ)、○永広祐一(東芝)		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

■TC47：9カ国、28 人の参加で Freescale の会議室にて行われた。●11 月 5 日：前回の会議からの進捗状況をレビューした。各 PJ や SC の進捗状況や Issues の確認を各プロジェクトリーダあるいは代理人が発表を行った。

●11 月 9 日:11 月 5 日～9 日午前までの各 SC のプログレスの発表が各 SC Chairman 並びにプロジェクトリーダーから行われた。MEMS が今後の活動をさらに活発に行う為に、SC として活動するが提案され、TC47 として全員一致で可決された。2008 年度の TC 全体会議はブラジルで開催されるが、TC47 は招待されていなく、日本が次回 TC47 の開催国として、申し入れた。開催日は 10 月～11 月の 1 週間になる予定。

■TC47WG2：11 月 8 日、5 カ国 7 名で開催。IEC60749「半導体の信頼性試験」の個別試験方法案、今後のﾒｲﾝﾃﾅﾝｽ方針について審議した。個別試験案として、歪ｹﾞｰｼﾞを用いた SMD 実装した基板の落下試験方法の NP 文書日本案、ESD/HBM に対する TLP 評価方法のｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ日本案を説明、案として席上合意の上、NP 案としてｺﾝﾋﾞﾅｰに提出した。また、審議進行中のはんだ耐熱性、SMD のﾊﾝﾄﾞﾘﾝｸﾞ規格、ｿﾌﾄｴﾗｰ、ESD/CDM の方針を議論、ﾒｲﾝﾃﾅﾝｽﾞｻｲｸﾙに入る既存規格について 1 件毎に改訂要否を検討し担当を決定した。また、米国から提案の気配がある包装材などへの鉛ﾌﾘｰ表示規格については、今回米国から提案はなかったものの、日本から反対理由を説明し、米国との議論を行った。

■TC47WG3：2007 年 11 月 6 日 AIRBUS の会議室にて、日本から経済産業省の寺田氏、北川氏の 2 名とプロジェクトﾘｰﾀﾞ前任者の後任の Leo Stuehler（Airbus）氏 3 名で行われた。製造装置会社の立場で半導体デバイス製品の長期保管に関するガイダンスである。信頼性試験の標準など他の標準とダブル内容が多く見られ、それらを省き、保管環境のガイドや長期保管した場合、使用前にベークするなどその条件などに特化することを推薦した。プロジェクトﾘｰﾀﾞ一も新人で、本プロジェクトの参加者なく、変なガイドにならないよう、日本として注意する必要がある。

■PT62258：11 月 6 日、5 か国 8 人(で開催。（1） Part 1； Requirement for procurement and use(Ed.2.0)：：・ドイツ、インドから出された語句修正の指摘を踏まえ、全ての表現について確認実施。語句の間違い部の修正及び説明追加（微細化と共にＥＳＤ耐性が低下等）。・用語について定義を追加。ＦＥＯＬ、ＢＥＯＬを追加し、さらにＢＯＡＣ；bond over active circuit やD2D;Die To Die, D2W;Die to Wafer が英国から提案された。英国の考えは、論文に記載されていると主張。論文は教科書でなく、一般的でない用語は定義不要と主張し除外された。ただし ＤＢＧ；Die Before Graind は最大ｶｽﾀﾏのシスコが使用していることから適用するに決定された。今回ＣＤＶとして完成。（2） Part 3 Recommendations for good practice in handling, packing and storage(Ed.2.0)　英国から出された Working draft を検討し 1st-CD として完成。以上

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／SC47A-①**（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 11 月 20 日

（報告者記載）整理番号：H19SC47A③

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：齊藤 義行　報告書作成者氏名：三谷 真一郎　（会社名）（株）日立製作所

出席会議名（半角）	区分	組織番号（TC/SC/TA）	SC47A/WG2（半角）
SC47A/WG2	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称（日本語）	集積回路/デジタル IC
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2007 年 11 月 7 日 ～ 2007 年 11 月 8 日		
開催場所	（国名）フランス	（都市名）トゥールーズ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	日本	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	5ヶ国、主な国名 日本(8)、フランス(5)、ドイツ(2)、オランダ(1)、アメリカ(1)、参加人数（17）		
日本人出席者名（会社名）	［○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎（JEITA 電子）］ ○三谷真一郎（ｺﾝﾍﾞﾅ，日立），○市川浩司（ﾃﾞﾝｿｰ），○栗本雅弘（沖電気），中村篤（ﾙﾈｻｽ），横瀞剛一（STARC），齊藤義行（松下），和田修巳（京都大学），春日壽夫（国際幹事，NEC）		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1 IEC 62433-2 (EMC IC modelling part 2: Conducted emission modelling, ICEM CE)
1.1 背景と目的：
WG 決定事項および過去の Observation が CDV に反映されていないことから CDV への反対投票を WG で申合せていたが、投票で承認されたため、提案国委員の合意の上で善後策を決めることが必要であった。
1.2 成果
・CDV に対するコメント全件を審議し Observation 案を作成。。日本のコメントはほぼ受け入れられた。
・日本提案のモデル構造の採用を決定。懸案であったモデル構造が決着した。
・提案国委員(フランス)の合意を得て CDV 投票結果を取下げを決定。同時開催の SC47A に撤回を提案し承認された。改訂版ドラフトを作成し、次回 WG 会議で 2CDV へ進める見通しである。
・提案国のフランス委員と日本でドラフトを共同作成することで品質を確保し、次回の WG 会議で審議することした。
1.3 問題点
・日本側のドラフト作成に関し国内の体制構築が課題。集積回路製品技術小委員会/EMC SC を中心に対応する。
2 IEC 62433-1 (EMC IC modelling part 1: General modelling framework)
年末までにオランダ委員が CD ドラフトを作成することを確認。
3 IEC 60248-2-20 Ed. 2 （日本提案：Low voltage IC family specification）
3.1 背景と目的：CDV の承認を受けて CDV のコメント審議と IS ドラフト日程を確定することが目的であった。
3.2 成果
・イタリアおよびポルトガルのコメントを審議。コメント全件の observation 案を確定した。
・IS ドラフトを来年 1 月に提出することとなった。集積回路製品技術小委員会/低電圧 IC SC で対応する。
4 新規案件
4.1 IEC 62433-3 (EMC IC modelling part 3, Direct emission modelling)：フランスからの NP 待ち。
4.2 IEC 62433-4 (EMC IC modelling part 4, Immunity modelling)：フランス委員からイミュニティモデルの構想と適用例の紹介がなされ、NP の意向表明があった。しかし NP 提出にはしばらく時間がかかりそう。
4.3 IEC 60748-2-21 (Digital IC part 21, Ultra-wide range DC interface spec.)：集積回路製品技術小委員会/低電圧 IC SC が低電力化を目的とした電圧 scalable な規格案を紹介。次回 WG 会議に間に合うよう NP を出すことになった。
5 次回会議： 2008-05 開催予定

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：**5-3／SC47A-②**（事務局記入）

提出日：2007 年 12 月 11 日

（報告者記載）整理番号：H19SC47A④

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：齊藤 義行　　報告書作成者氏名：齊藤 義行　（会社名）松下電器産業（株）

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC47A/WG9 (半角)
SC47A / WG9	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称 (日本語)	集積回路／EMC 測定方法
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	
開催期日	2007 年 11 月 5 日 ～ 2007 年 11 月 6 日		
開催場所	（国名）フランス	（都市名）トゥールーズ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mart Coenen	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	7 ヶ国、主な国名 日本(5)、ﾄﾞｲﾂ(2)、ｵﾗﾝﾀﾞ(1)、米国(1)、フランス(4)、参加人数（13）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎（JEITA 電子）] 中村篤(ルネサス)、和田修己(京大)、横瀬剛一(ルネサス)、市川浩司(デンソー)、○齊藤義行(松下)		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1. 前回(トリノ会議)議事録確認　出席者を修正(フランスメンバーを削除)して承認された。
2. ドキュメントのステータス確認
   - 61967-6 Am1 は FDIS を CO に送付済み、62132-6（LIHA）、62215-3（Non-Synchronous Transient Injection）は NP 待ち
     (*) 62132-6、62215-3 の NP 文書を Secretary に送付済みだがサーキュレートされていないとの報告あり→要確認
   - 新たに以下の 6 件の NP が行われる予定であることが報告され、IC EMC Standardization roadmap が更新された。
     61967-7 Mode Stirred Chamber method（ｵﾗﾝﾀﾞ）、61967-8 Micro Strip-line（ﾄﾞｲﾂ）、62132-7 MSC（ｵﾗﾝﾀﾞ）、62132-8 MS（ﾄﾞｲﾂ）、62132-9 Near Field scan immunity method（ｱﾒﾘｶ）、以上 2008 年 NP 予定。62215-6 NFSI（ｱﾒﾘｶ）、NP 時期未定。
   - 61967,62132,62215 の各 Part1 について、新しいパッケージに対応するための修正を検討することとなった。
   - 61967-4-1、5、6、62132-5 が 2007 年に Review Date を迎えることが提示され、61967-4 はキャリブレーション法の改訂を計画していることがドイツより報告された。日本からは新 Package 対応のため 61967-6 の基板改訂を予定していることを報告。
3. 47A/774/CD（62132-2:TEM-Cell）　ドイツ・日本コメントの審議と Observation の決定
   - 日本コメント、Proposed Change はほぼ日本意見通りアクセプトされた。
   - TEM-cell と GTEM-cell を用いた場合の電界・磁界強度の較正法（Annex A）について多くの議論がなされ、較正に使用する電界および磁界アンテナへの要求精度・較正法の詳細を追加し、電磁界計算式を修正し説明を追加することとなった。
   - 前回コメントが反映されていない不備はあるが、すべてのコメントに対応後、CDV に移行することが決定された。
4. IEC 62132-6（Local Injection Horn Antenna 法）⇒ フランスは IS をやめて、TS or TR として NP を出すことに変更
   - ドイツ、日本が LIHA 実験結果（デンソー、エプソン、パナソニックの結果）を紹介→トリノ会議で報告したものと同じで否定的
   - Convener から Calibration 用の専用 PCB が必要となる、ノイズ印加用アンテナとリファレンスプレーン（PCB）の接続が弱い、62132-2 とほとんど同じである、再現性が悪いといった否定的なコメントが出された。
   - JPNC としては感度が悪いので NG という立場であることを報告、ドイツも VSWR が悪いことを含め同様の意見を表明。
5. IEC 62215-3 Non-Synchronous transient injection method（アメリカ提案、Random Transient Injection の名前を変更）
   - トリノ会議での指摘事項を反映した NP 文書案の改訂版の説明があり、内容についての議論が行われた。
   - ドイツから基本的に 62132-4（DPI）と同じ手法、テスト周波数の規定等でいい加減なところが多いといったコメントがあった。
   - NP 否決の可能性ありとのコメントが Convener からあったが、アメリカからは修正後 NP（2007）を出すとの意思表示がされた。
6. その他 Convener から自身の転職に伴い、Convener を継続できない可能性が高いと報告があった。後任は未定。
7. 次回以降の予定　2008 年 5 月中旬:Nantes（FR）、2008 年秋：日本（開催都市・日程未定）・・・TC47 と同時開催予定

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／SC47A-③**（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 12 月 10 日

（報告者記載）整理番号：H19SC47A⑤

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：齊藤　義行　　報告書作成者氏名：　春日　壽夫　（会社名）NEC ｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ(株)

出席会議名（半角）	区分		組織番号 (TC/SC/TA)	SC47A (半角)
SC47A	□TC ☒SC □TA □WG □PT □その他			
SC47AWG2	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		名称 (日本語)	半導体集積回路
SC47AWG9	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他			
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		□単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2007 年 11 月 5 日 ～ 2007 年 11 月 9 日			
開催場所	（国名）フランス	（都市名）トゥールーズ		
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Roger George(英国)	幹事国　日本		
参加国及び参加人数	6ヶ国、主な国名 日本、英国、オランダ、フランス、米国、ドイツ、参加人数（11）			
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○中村(SC47A 国内委員長)、○横溝剛一(SC47A 前国内委員長)、三谷(WG2コンビナ)、○春日(SC47A コンビナ)			

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1．成果昨年会議以来の成果として3件のプロジェクトが発刊されたことが報告された
①IEC/TS 62228 Ed. 1.0 English：EMC evaluation of CAN-transceivers：WG9
② IEC/TS 62215-2 Ed. 1.0 English: Measurement of impulse immunity: Impulse Injection method：WG9
③ IEC/TS 62404 Ed. 1.0 English：I/O Interface Model for Integrated Circuits (IMIC)：WG2
2．WG活動
2.1)WG2：ロジックデバイスの標準化（EMC インターフェース、低電源電圧 IC の規格）：三谷国際 WG 議長
①日本が提案している低電圧 IC 規格は CDV の投票で反対投票がなかったことから国際標準規格として発行されることになった。
②フランスが提案している ICEM-CE 規格の提案は CDV の提案文書が前回の1年前の WG 会議での修正内容が反映されないままになっていたことから WG メンバ各国が反対投票を行い差し戻す予定であった。日本・ドイツだけがコメント付き反対をしたが、オランダ・米国・フランスがコメントなしで賛成をしたため、CDV 投票結果承認されてしまった。今回の WG でも大幅な修正意見が出され提案国フランスも同意した事から事務局と相談をし、2CDV として進めていくことになった。但し、会議後 CO から連絡があり、一度 CDV 投票されてしまったものは再度 CDV は認められないとの新見解を示してきた。対応検討中
③現在新規提案が EMCIC モデリングで3件が、低電圧 IC で1件が計画されている。
2.2)WG9：EMC 測定方法：オランダが議長
①昨年からの活動で2件の審議文書が IEC から発刊を完了した。
②日本から提案している MP 法の FDIS 原稿が仏訳を完了して CO に送付され、編集上のチェックのための各国投票が行なわれる事になった。
③さらに米国の提案文書が CD→CDV、米国とフランスから新規提案がそれぞれ2件提出されている。
④さらに1件が提案を検討中となっている。
3. 今後の活動
WG7：先端ハイブリッド IC モジュール(MCM や3次元パッケージ)
　本 WG は日本がコンビナーを持っており、好都合の場所である。半導体を中止としたモジュール技術の世界をまとめていく必要がある。取り敢えず、SiP の標準化活動に関する研究タスクフォースを立ち上げることにした
4．次回開催　2008 年5月は WG2 と WG9 単独、2008 年 10 月は SC47A 及び WG(TC47 と同時開催で日本)。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。

国際標準化対応支援委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11(三井住友海上別館ビル)　Tel:03-3518-6435　Fax:03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／SC47D-①**（事務局記入）

国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 11 月 2 日

（報告者記載）整理番号：H19SC47D①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：中島宏文　報告書作成者氏名：平岩克朗　（会社名）富士通

出席会議名（半角）	区分		組織番号 (TC/SC/TA)	SC47D (半角)
SC47D	☐TC ☒SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他			
WG1	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		名称 (日本語)	半導体パッケージ外形標準化
WG2	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他			
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2007 年 11 月 7 日 ～ 2007 年 11 月 8 日			
開催場所	（国名）フランス	（都市名）トゥールーズ		
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	中村	幹事国　日本		
参加国及び参加人数	6ヶ国、主な国名 米国、ドイツ、韓国、参加人数（14）			
日本人出席者（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○中村チェア(ユニテクノ)、○吉田幹事(松下電器)、○平岩国内委員長(富士通) 中島(NECエレクトロニクス)、大塚(東芝)、山田(ルネサステクノロジ)			

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

１．ＳＣ４７D本会議

・日本から経済産業省と日本規格協会がオブザーバ参加をしていることが、紹介された。

・オランダは、今回の出席を機にP-member として正式参加することを検討することになった。

1）空位だったWG1 の Convenor として韓国の Choon Heung Lee 氏が推薦され、承認された。

2）IEC CO からの報告（3件）

・IEC Global Reach について／・特許公開を推進する方針について／・TC91 からの半導体パッケージングに関する Terminology 定義に協力したい件については、TC91 とのリエゾンを設けることになった。

２．WG１関連テーマ

1）個別半導体パッケージの外形規格提案 47D/647/CD（ドイツ提案）と 47D/689/CD（日本提案)については、Michael Ahr 氏が 12 月末までに２つの提案をまとめて一つにして中島氏に送る。

2）SC47D の新たな審議案件を広げるべく検討する。

3）JEDEC で主に検討されている DIMM 外形も含めて新テーマとして検討する。

4）WG1 のテーマとして構造・工法をあげることが提案された。

３．WG2 関連テーマ

1）Global drawing format Project, IEC 60191-6 Ed. 3.0: Part 6: General rules for the preparation of outline drawings of surface mounted semiconductor device packages については、ほぼ合意して修正した。

2）IEC 60191-6-17 Ed. 1.0: Part 6-17: Design Guide for Stacked Packages and Individual Stackable packages - Fine-pitch Ball Grid Array and Fine pitch Land Grid Array Packages (FBGA/FLGA) (Japan)については図法を GDF にあわせて書き直す。2008 年４月までに図面を書き直して 2nd CD を発行する。

3）PNW 47D-677 Ed.1.0: NP-PAS: General rules for the preparation of outline drawings of surface mounted semiconductor device packages -Design guide for ball grid array (BGA) (Japan)については CD を発行する。

4）PNW 47D-691 Ed.1.0: NP-PAS: Measurement methods of package warpage at elevated temperature and the maximum permissible warpage (Japan)についても CD を発行する。

5）大塚氏から SOJ/SOP の測定方法の提案があり、NP の説明があった。

４．その他

・メンテナンス規格は、原則として作成国がおこなうことが確認された。／・TC91, TC40 とのリエゾンについては、TC91, TC40 の幹事と SC47D の幹事間で調整する。／・次回開催もＴＣ４７と同時開催予定となる。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／SC47D-②**（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 12 月 22 日

（報告者記載）整理番号：H19SC47D①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：中島宏文　報告書作成者氏名：中島宏文　（会社名）NEC エレクトロニクス

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC47D (半角)
SC47D/WG1	☐TC ☒SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称 (日本語)	半導体パッケージ
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2007 年 11 月 7 日 ～ 2007 年 11 月 8 日		
開催場所	（国名）フランス	（都市名）トゥールーズ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Choon Heung Lee（韓国）	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	5ヶ国、主な国名 ドイツ、米国、オランダ、韓国、日本、参加人数（14）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○中島 宏文		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

＜Convenor の承認＞

WG1 の Convenor は米国の辞任に伴って空席となっていたが、今回正式に韓国の Choon Heung Lee が承認された。

＜WG1 審議内容＞

(ア)個別半導体パッケージの外形規格提案 47D/647/CD（ドイツ提案）と 47D/689/CD（日本提案)については、非常に類似した規格であることが認識された。日本のパッケージの区分として端子数が第一義であるという立場と、ドイツのパッケージ寸法が第一義との意見の相違があった。本件は縦軸がパッケージ寸法、横軸が端子数の表を作成して一覧表にしようとの米国の仲裁案で治まった。図面の詳細な違いに関してはほぼ日本の意見が通った。ドイツの Michael Ahr が 12 月末までに２つの提案をまとめて一つにして、中島に送る。

(イ)SC47D の案件が収束してきたので、新たな審議案件を広げるべく検討し、韓国の Choon Heung Lee にメールで提案する。

(ウ)Michael J. Hundt から JEDEC で主に検討されている DIMM 外形を検討したらどうかとの意見も提案された。これも含めて新テーマを検討する。

(エ)WG1 のミッションを拡大して、構造・工法も検討したらどうかとの意見も出た。

［注］: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／SC47D-③**（事務局記入）

国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 11 月 30 日

（報告者記載）整理番号：H19SC47D①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：中島宏文　報告書作成者氏名：大塚雅司　（会社名）東芝

出席会議名（半角）	区分		組織番号 (TC/SC/TA)	SC47D (半角)
SC47D WG2	☐TC ☒SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他			
	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		名称 (日本語)	半導体パッケージ外形標準化
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他			
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2007 年 11 月 7 日 ～ 2007 年 11 月 8 日			
開催場所	（国名）フランス	（都市名）トゥールーズ		
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	中村／Michael Ahr	幹事国　日本		
参加国及び参加人数	6ヶ国、主な国名 米国、ドイツ、韓国、参加人数（14）			
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○:大塚雅司(東芝)、○:山田宗博(ルネサステクノロジ)			

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

WG２での標準化状況として、進行中４件の状況と方針を確認、２件の新規案件提案がなされた。

(1) Global drawing format Project, IEC 60191-6 Ed. 3.0: Part 6: General rules for the preparation of outline drawings of surface mounted semiconductor device packages についてはドイツからコメントがいくつかあり、ほぼ合意して修正した。(大塚氏担当)

(2) IEC 60191-6-17 Ed. 1.0: Part 6-17: Design Guide for Stacked Packages and Individual Stackable packages - Fine-pitch Ball Grid Array and Fine pitch Land Grid Array Packages (FBGA/FLGA) (Japan)については図法が Global drawing format 以前のボールデータムを使っていたことから、GDF にあわせて書き直す。また、その場合には D と E 寸法 MAX に Offset tolerance が含まれることから記述をしない。2008 年 4 月までに図面を書き直して 2nd CD を発行する。(中島担当)

(3) PNW 47D-677 Ed.1.0: NP-PAS: General rules for the preparation of outline drawings of surface mounted semiconductor device packages -Design guide for ball grid array (BGA) (Japan)については合意が得られたので CD を発行する。Top page は Secretary に提出済みなので、吉田幹事担当。

(4) PNW 47D-691 Ed.1.0: NP-PAS: Measurement methods of package warpage at elevated temperature and the maximum permissible warpage (Japan)についても合意が得られたので CD を発行する。Secretary に提出済み。吉田幹事担当.

(5) 大塚氏から SOJ/SOP の測定方法の提案があり、NP の説明があった。SOJ はなぜ今更との質問も米国からあったが、JEITA で標準化されているので、IEC でも標準にするとの回答をおこなった。

[注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11(三井住友海上別館ビル)　Tel:03-3518-6435　Fax:03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／SC47E-①**（事務局記入）

国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 12 月 4 日

（報告者記載）整理番号：H19SC47E①～⑤

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：石井一史　報告書作成者氏名：小黒洋一　（会社名）(株)東芝

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC47E, WG1,WG2,WG3,WG4 (半角)
SC47E	☐TC ☒SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
WG1、WG2	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他	名称 (日本語)	個別半導体,半導体ｾﾝｻ、ﾏｲｸﾛ波ﾃﾞﾊﾞｲｽ、ﾊﾟﾜｰﾃﾞﾊﾞｲｽ、ﾌｫﾄｶﾌﾟﾗ
WG3、WG4	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	

開催期日	2007 年 11 月 5 日 ～ 2007 年 11 月 9 日	
開催場所	（国名）フランス	（都市名）トゥールーズ
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	ﾁｪｱﾏﾝ 大和田/ｺﾝﾍﾞﾅ WG1：Park（韓国），WG2：大芝，WG3：古賀，WG4：小黒	幹事国　韓国
参加国及び参加人数	8ヶ国、主な国名 日本、韓国、英、独、米、中国、ｵﾗﾝﾀﾞ、C.O、参加人数（25）	
日本人出席者名（会社名）	［○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎（JEITA 電子）］ 大和田邦樹（帝京大学）、○大芝克幸（ソニー）、○梅田章（産総研）、○古賀健司（日立）、 ○石井一史（三菱電機）、○宮下秀仁（富士電機）、○小黒洋一（東芝）、○真喜屋勝則（シャープ）	

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

【背景・目的】各 WG の年間活動報告、各 PJ の文書審議と次のｽﾃｯﾌﾟの確認。ﾒﾝﾃﾅﾝｽと個別半導体共通課題の審議。

【成果・問題点】[SC47E](Plenary) 1. 各 WG ｺﾝﾍﾞﾅが昨年のﾛﾝﾄﾞﾝ会議以降１年間の活動状況と会期中の成果を報告。 2. 4 月に任期満了で退任した Delort 氏に代わり大和田氏がﾁｪｱﾏﾝに選出され、就任後初の Plenary 会議。3. 経済産業省から２名の参加があり、SC47E の活動内容並びに現状に理解を深めて戴いた。4. 次回'08 年秋は日本開催の予定。

[WG1] 60747-14-4(加速度ｾﾝｻ)の FDIS については、ISO/TC108 と IEC/TC47 のﾁｪｱﾏﾝ同士の意見交換では既に物別れが確認されているが、中央事務局の意向により'07/11/29 に ISO/TC108 と SC47E の話合いが決定。今回はこのような状況下で今後の議論の進め方を話し合った。①半導体加速度ｾﾝｻに関しては、11 月下旬の ISO/TC108 との会談を控え各国にその事実を周知させた上で、他国の意見に縛られないよう戦略的に議論を運び、対応を日本に一任させることが出来た。②具体的にどのような戦術で ISO/TC108 に対峙するかに関しては 11/16 に関係者と相談し詰める。

[WG2] 1. 60747-4Ed.2(個別ﾏｲｸﾛ波ﾃﾞﾊﾞｲｽ)と 60747-16-2Ed.1Am.1(ﾌﾟﾘｽｹｰﾗ)は IS がそれぞれ 8 月,10 月に発行。RVD の修正ｺﾒﾝﾄ・修正内容を確認。2. 60747-16-3Ed.1Am.1(周波数変換器)と 60747-16-4Ed.1Am.1(ｽｲｯﾁ)は CC の修正ｺﾒﾝﾄを審議し、日本の Observation 案を承認。CDV へ進む。3. 60747-16-5(ﾏｲｸﾛ波発振器)は日本が 3 回目 NP を提案し投票中。ｴｷｽﾊﾟｰﾄは会議に参加した日・中・英の 3 ヶ国確保。4 ヶ国目は SC47E 幹事(韓国)に獲得要請した。追加項目「変調周波数帯域幅」は継続して調査検討する。中国が作業分担するよう再度要請。4. 次回'08/6Ad-hoc 開催予定。場所は東京。

[WG3] 1. 60747-7Ed.3(BTR),60747-8Ed.3(FET),60747-15Ed.2(Isolated Power Semiconductor Devices)は CDV 案の年内作成を確認し、CDV:'08/2,FDIS:'08/11,IS:'09/9 に変更。2. 60747-9Ed.2(IGBTs)は IS 発行('07/9)を報告。3. 既発行文書のﾒﾝﾃﾅﾝｽは、60747-2,-3,-6 関係文書は'13 年迄延長。60747-7-5,-8-2,-8-3,-8-4 は現在作成中の 60747-7Ed.3(BTR), 60747-8Ed.3(FET)に取入済のため'13 年迄延長し、60747-7Ed.3(BTR),60747-8Ed.3(FET)の IS 発行の段階で無効となるようにを幹事に申し入れる。4. 次回は 2008/5 or 6。場所はﾆｭｰﾙﾝﾍﾞﾙｸ。

[WG4] 1. コンビナの増田氏退任に伴い、小黒氏が新コンビナに承認され、日本が主導権を守った。2. 60747-5-5Ed.1.0 は'07/9/26 付での IS 発行を確認。3. 60747-5-1Ed1.2,-2Ed1,-3Ed1 のﾒﾝﾃﾅﾝｽの進め方については'03Delft 会議での結論に基づき MT６との間で１２月末迄に確認を取る。4. Magnetic and capacitive coupler については 47E/352/NP にて'07/10/12 に NP 提案が出された。'06 のﾛﾝﾄﾞﾝ会議で TC47 で示された WG を分離する結論に沿って WG4 では以降はﾃｰﾏとしては取り上げないことにした。5. 60747-5-5 の改定の次の議論は Fﾌｧｸﾀｰ他計３点を軸に進めることに合意しそのﾄﾞﾗﾌﾄは発案者・米国が作成し提案することとなった。

［注］: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／SC47E-②**

IEC 活動推進委員会　御中

提出日: 2007 年 12 月 4 日

（報告者記載）整理番号：H19SC47E⑦

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：石井一史　報告書作成者氏名：梅田　章　（会社名）独立行政法人産業技術綜合研究所

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC47E (半角)
SC47E- -ISO/TC108 合同会議	☐TC ☒SC ☐TA ☐WG ☐PT ☒その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称 (日本語)	個別半導体
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	
開催期日	2007 年 11 月 29 日 ～ 2007 年 11 月 29 日		
開催場所	（国名）米国	（都市名）ニューオルリンズ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	SC47E ﾁｪｱﾏﾝ 大和田／ｺﾝﾍﾞﾅ Park（韓国）	幹事国　韓国	
参加国及び参加人数	2ヶ国、主な国名 日本、米国、参加人数（4）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎（JEITA 電子）] ○梅田 章（独立行政法人産業技術綜合研究所）、○大和田 邦樹（帝京大学）		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

【背景】IEC60747-14-4(半導体加速度センサー)規格が、ISO/TC108 からコンフリクトの問題ありとして TMB に提訴され、SMB からドラフトの進行を停止されている。

【目的】この問題解決のため、IEC 中央事務局が IEC/TC47-ISO/TC108 joint meeting を設定した。本会議に参加しコンフリクト問題の解決を図る。

【成果】１時間半の一般的討議と 30 分の IEC としての解決案の提示。

・一般的討議では終始議論は噛み合わず、TC108 議長が「加速度計の校正は TC108 のテリトリーだ」との強弁に終始し、「ISO/IEC17025 の記述に従えば、IEC が半導体加速度計の校正規格を作成しても、既規格には触れない」ことを認めなかった。

・IEC/SC47E 大和田国際委員長が解決案を提示。ISO 側の回答期限は、１月末。

案１：calibration を measurement に修正する。

案２：本文＋Annex A,B,C については、そのままとし、Annex D 以下に関しては、ジョイント WG を作成し CDV の段階から議論して、ダブルロゴの規格とする。

※提示した解決案は、事前に JISC(経産省寺田氏)・原田 SMB 国際委員との事前協議に基づいたものである。

【問題点】一般的討議では以下のように終始議論は噛み合わなかった。

①ISO/TC108 は ISO/IEC17025 を認めていない。その理由はテクノロジーの記述がないことと推察。

②TC108 議長によると、「マトリックス感度はパラメータが多すぎて現実的ではない．また、多軸加速度計の校正は、単軸加速度計の校正を各軸に対して行えば良い．」。これでは、ISO と IEC の間には重複は起きない。

等々。

［注］: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（(三井住友海上別館ビル）　Tel:03-3518-6435　Fax:03-3295-8727

(TSC-06 様式 2006.3)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／SC48B-①**（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 11 月 19 日

（報告者記載）整理番号：H19SC48B②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：河合　徹　　報告書作成者氏名：河合　徹　（会社名）日本航空電子工業株式会社

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC48B (半角)
TC48	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
SC48B	☐TC ☒SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称 (日本語)	コネクタ
SC48B/WG3,5,6	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2007 年 10 月 15 日 ～ 2007 年 10 月 19 日		
開催場所	（国名）チェコ	（都市名）プラハ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	B. Joynes/G. Weking/D. Jooren /U. Bolsfeld	幹事国　米国	
参加国及び参加人数	10 ヶ国、主な国名 米、独、英、仏、伊、ｽｲｽ、ｵﾗﾝﾀﾞ、ﾃﾞﾝﾏｰｸ、ﾁｪｺ、日本、参加人数（22）		
日本人出席者（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○安田圭一(NTT-AT)、○小島槇雄(タイコエレクトロニクスアンプ)、○佐藤賢一(ヒロセ電機)、○河合徹(日本航空電子)		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1.WG3(コネクタ)

(1) 61984 Ed 2.0、コネクタ安全規格（旧 VDE 0627）：48B/1755/CDV は、投票の結果承認された。多くのコメントが届いたがプロジェクトリーダーが解決することのできない 9 つのコメントに関しアドホック会議を開きプロジェクトチームのメンバーでコメントを解決した。各国のコメント及び会議の結論を盛り込んだ文書が FDIS として年末までに各国へ回覧する予定。日本から輸出する電子・電気機器に使用する殆んどのコネクタは、この規格が強制規格となるため今後も注意深く見守る必要がある。

(2) 61076-2-xxx Ed2.0、電気・光ハイブリッドコネクタ：48B/1790B/NP は、承認され PAS として発行する予定。IEC 規格原案作成にあたり SC48B/WG3 と SC86B/WG6 との共同作業をするための JPT(Joint Project Team)の発足を提案し SC48B で承認された(SC86B の承諾待ち)。

2.WG5(試験法)

(1) Measuring uncertainty：英国 NC より ISO Guide 98 - Guide to the expression of uncertainty in measurement(GUM)を参考にして 60512 Series 規格にも "Measurement uncertainty" を加えるべきではないかとの提案があった。WG 5 では賛否両論多くの意見が出され結論に至らなかったが SC48B で審議の結果、60068 Series の 8 項に "Measurement uncertainty" について記述があり 60512 は 60068 を引用しているので英国コメントは否決された。

(2) 60512-15-1 Test 15a(コンタクト保持力)から 60512-15-7 Test 15g(保護カバーの強度)までの 7 アイテムの CDV が承認され、FDIS が数ヶ月以内に回覧される予定。

(3) 60512-16-1 Test 16a(プローブダメージ)から 60512-16-18 Test 16r(コンタクトの振れ)までの１５アイテムの CDV が承認され、FDIS が数ヶ月以内に回覧される予定。

3.WG 6(接続技術)

(1) 60352-8: Compression mount connections 日本提案：48B/1789/CD に対するコメント集 48B/1789/CC について議論した。ドイツ NC から本提案は特定の設計用途に限定した個別規格のように受け取れるので、むしろ製品規格の 61076 シリーズへ変更すべきとの提案があった。一方、本規格案の内容をより包括的な接続技術標準へ改善すべきとの意見も出された。日本としては 61076 シリーズへ変更したい旨述べた。議論の結果、本規格案を以下の二つのプロジェクトに分割して同時並行することが agree された。①60352-8 を継続する。但し、高周波デジタル伝送に限らず BGA,LGA,Infiniband コネクタ等各種コンプレッションマウント接続をカバーするよう内容を変更し、2nd CD を作成する。②WG3 にて 61076 シリーズとして NP 提案する。

(2) 60352-5(プレスイン接続)：48B/1783B/RVC にてドイツ NC より本規格案表 1 のスルーホール径(特にドリル径)は正しく計測できないし新製造法にも対応しておらず誤解を招くとの理由で削除すべきとの提案があった。議論の結果、ドリル径は製造技術者にとって重要な情報のひとつなので、むしろドイツ NC は next edition にて新製造法に対応したドリル径を提案するよう要請された。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してくださ。い
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／SC48D-①**（事務局記入）

国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 10月 31日

（報告者記載）整理番号：H19SC48D①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：　末光　吾郎　　報告書作成者氏名：　末光　吾郎　（会社名）NEC

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC48/SC48D (半角)
SC48D	☐TC ☒SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
SC48D WG2	☐TC ☒SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他	名称 (日本語)	電子機器の機械的構造
SC48D WG4	☐TC ☒SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
TC48D	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2007 年 10 月 16 日 ～ 2007 年 10 月 19 日		
開催場所	（国名）チェコ共和国	（都市名）プラハ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	WALLERS (SWD) /MAZURA (GER)	幹事国　チェコ共和国	
参加国及び参加人数	6ヶ国、主な国名 米国、英国、スウェーデン、ドイツ、中国、日本、参加人数（16）		
日本人出席者（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○杉浦伸明(愛知工科大学) ○犀川慎一(三菱電機) ○高田潤二(三菱電機) ○坂本憲太郎(リタール) ○末光吾郎(NEC)		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

１．SC48D

１－１．メンテナンスと将来の作業について議論。

1-1-1.　日本から、19"ラックの規格である IEC　60297 とメトリックラック IEC　60917 の情報の規格に適合する CABINET の取付金具寸法について提案。結果、日本提案を正式に議論していくことが承認された。

1-1-2.　IEC 61969 規格（60297 と 60917 のための環境評価の規格）は、テレコム装置特有の規格になっている。ついては、他の業界に対しても利用できるスペックに見直すことを検討してはとのコメントがあった。これに対しては、ドイツの委員会で議論し、たたき台のドキュメントを作成し、各国にコメントを求めることとなった。

２．SC48D　WG2,WG4

２－１．Project leader: Mr.Mazura/Germany　Project-No：IEC 60297-3-100 Ed.1 のメンテナンスに関する議論。

フロントパネル、サブラック、シャーシ、ラック、キャビネットの基本寸法に関する規格のメンテナンス作業を実施し、各国からのコメントをまとめた。今後、セクレタリにて、コメントをまとめた後 CDV を 12 月 31 日に発行することが承認された。

２－２．Project leader：Mr. Suemitsu / Japan　Project-No：IEC 60297-3-105 日本から新提案している 1U シャーシの寸法に関する規格化の議論。

各国からのコメントを討議する作業を行った。結果、セクレタリにて、コメントをまとめた後、12 月 31 日に発行することが承認された。

２－３．その他の提案（USA から）

高速コネクタの接続構造に関する提案が USA からなされた。内容は、”BWB 側は、コネクタで基板側がカードエッジ（基板のパターンのまま）の接触で高速伝送を満足させるようなメカニズムをメカニカルな寸法で規定化することができないか?”という提案。SC48D においては、機械的構造については規定化が比較的容易であるが、コネクタとの勘合しかつ電気性能を満足させるための寸法を規定化するには、SC48B との整合が必要と判断された。これについては、コンベナの預かり案件として SC48B 含め継続案件となった。

３．TC48

セントラルオフィスからの情報展開および、他のリエゾンからの報告がなされた。

［注］: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／SC62A-①**（事務局記入）　　様式 4

国際標準化対応支援委員会　御中　　提出日：2007 年 11 月 16 日

国際会議出席報告書

（報告者記載）整理番号：H19SC62A③、⑤

国際会議担当委員名：市川 義人　報告書作成者氏名：中田 和成　（会社名）（株）東芝

出席会議名（半角）	区分	組織番号（TC/SC/TA）	62A/MT23（半角）
SC62A/MT23	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☒その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称（日本語）	共通事項：EMC
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	
開催期日	2007 年 10 月 15 日 ～ 2007 年 10 月 19 日		
開催場所	（国名）アメリカ	（都市名）アンドーバー	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	アメリカ	幹事国　アメリカ	
参加国及び参加人数	6ヶ国、主な国名 アメリカ、ドイツ、スウェーデン、フランス、デンマーク、日本、参加人数（14）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎（JEITA 電子）] ○ 中田 和成（(株)東芝）、○ 冨沢 修幸（松下電器産業(株)）		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄ご改行しながら最大28行まで記入できます。）

１．背景と目的

IEC 60601-1-2 第 4 版の CD 作成が本格化してきたが、予定していた 2007 年 11 月発行は無理な状況である。

この版の主な特徴として、Basic safety（基礎安全）や製品ライフサイクル全般に亘る Risk Management Process の導入、使用環境で分類した category 毎への試験レベルの設定などがあり、この各項目を中心に審議を行う。

２．概要

１）Safety Standard（安全規格）：IEC 60601-1-2 第 4 版

・EMC 試験後の安全性試験

日本でも懸念されていた件だが、EMC 試験で確認、保証するのは Basic Safety と Essential Performance なので、Basic Safety を確認するためには安全性試験は必要との考えが Convener（Mr. Conrad）から示された。

・Category 分類

Category に分けようとしている環境は、第 2 版（Annex EEE）および第 3 版（Annex F）に記載されていたものがベースになっており、分類結果は表にして規格本文に載せることになった。試験レベルは様々な環境を考慮し、マージンを上乗せしたことで全体的に厳しくなってきている。ただし、採用する試験レベルは Risk Analysis によって決めることになるため、Risk Management Process の運用およびその妥当性検証が非常に重要である。

・Risk Management Process

Risk Management Process に含めるべき項目を検討した。これには EMC 評価の判定基準や評価装置構成などに加えて、製品ライフサイクル全般に亘って想定される EMC 環境も含める案が示されている。

具体的な項目は Informative Annex にするべきとの提案が出されたが、これは Requirement なので本文に記載するとの説明があった。Risk Management で決めることが多くあるが、その妥当性は誰が確認し認めるのかの議論があった。各国の制度によって異なるが、Notified Body などの認証機関が行うことになると思われる。

２）Performance Standard（性能規格）：IEC 6XXXX（New Work Item Proposal）

現段階では Safety Standard（安全規格）の作成に注力しているため、進展していない状況である。

３．今後の予定

CD 作成が遅れているため 2008 年 1 月に会議を追加し（1 月 21 日～25 日、Minneapolis）、2008 年 4 月発行を目指す。4 月のフランス（2008 年 4 月 7 日～11 日）の次は日本開催を提案し承諾された（2008 年 11 月 17 日～21 日）。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会 知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル） Tel:03-3518-6435 Fax:03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／SC62A-②**（事務局記入）

国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 11 月 29 日

（報告者記載）整理番号：H19SC62A⑯、⑰

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：市川義人　　報告書作成者氏名：　中谷 敬　（会社名）日本光電工業株式会社

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC62A/JWG6 (半角)
	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☒その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	在宅用医療機器
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	
開催期日	2007 年 10 月 29 日 ～ 2007 年 11 月 2 日		
開催場所	（国名）アメリカ	（都市名）Washington DC	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mr. Lasthous, Dr. Hedley-White	幹事国　ドイツ	
参加国及び参加人数	8ヶ国、主な国名 アメリカ、ドイツ、日本、スイス、デンマーク、オランダ、参加人数（20）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○ 中谷敬(日本光電工業株式会社)、○ 石田伸司(テルモ株式会社)、		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

在宅医療機器に関する副通則 IEC 60601-1-11 制定のための第 2 回国際会議である。JWG6 は、IEC/SC62A と ISO/TC121/SC1&SC3 の Joint Working Group である。第１回会議で作成された Working Draft(WD)に対して、各国よりコメントが提出され、これを基に WD を修正して、Committee Draft(CD)案を作成した。

[討議内容と結果]

(1) 在宅医療機器を使用する home healthcare environment の定義が議論された。定義の変更はなかったが、example, note, rationale を追加して、議論の経過を反映することになった。特に、救急車での搬送、nursing facility などをどのように扱うかが問題となった。

(2) 在宅用医療機器は病院環境よりも厳しい条件での使用が想定される。安全通則 IEC 60601-1 ではリスクマネジメントを考慮し、使用環境、耐衝撃性の規定がなどは製造業者が定めることになっている。前回会議で決まった、使用環境温度・保存環境温度・耐衝撃性・防水性の規定がが厳しすぎ、メーカの開発意欲を殺ぎかねないとの意見が、ヨーロッパ（提案国のドイツを除く）を中心に主張され、日本も賛同した。結局、具体的な条件がかなり緩和された(例、使用環境温度 -5℃～+40℃→+5℃～+40℃、防水性 厳しい場合でも、IP33→IP32)。

(3) 在宅医療機器の使用者が、医療専門家で無いことを考慮して、附属書類や機器の表示に関して、細かな配慮をする規定が盛り込まれた。ただし、WD 案にあった、”附属書類を初等教育 8 学年程度の学力で読めるものにする”という規定は現実的でないとして、削除された。

(4) 今後の予定。

・次回 JWG6 開催　2008 年 6 月 16～20 日、イギリス London CD1 審議

・次々回の JWG 開催 2009 年 1 月 19～23 日、日本 京都 CD2 審議

・IS 発行予定 当初 2009 年 11 月を予定していたが、2010 になる見込み

以上

[注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11(三井住友海上別館ビル)　Tel:03-3518-6435　Fax:03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／SC62A-③**（事務局記入）

国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 11 月 30 日

（報告者記載）整理番号：H19SC62A⑲

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：市川義人　報告書作成者氏名：　内藤正章　（会社名）日本光電工業㈱

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	CS62A/WG 14 (半角)
WG 14	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	共通安全規格の試験
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	
開催期日	2007 年 10 月 30 日 ～ 2007 年 11 月 1 日		
開催場所	（国名）イスラエル	（都市名）テルアビブ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mr. Sippl	幹事国　アメリカ	
参加国及び参加人数	6ヶ国、主な国名 ドイツ、カナダ、日本、参加人数（8）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○内藤正章		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1.背景・目的

ここでは、医用電気機器の安全性に関する試験についての検討をおこなっている。安全規格の解釈と試験方の整合が求められており、これらに関する2つの、Technical Report が検討されている。

－ 不明確な安全性解釈に対する Recommendation sheets（IEC TR 62296）

－ 一般的安全試験手順（IEC TR 62354）

2.成果

TR 62296 に関して

約 40 件の Recommendation sheets の検討を終えた。

（PTC サーミスタ、沿面距離、CD－ROM 取説、サーモカップルによる温度測定、スイッチング電源の基準電圧など）。 来年に CDV を発行できるように次回さらに検討を加える。

TR 62354 に関して

CTL から入手したサーモカップルによる温度計測方法を追加する。試験を行う人に対する労働安全について調査し、必要があったら加える。前回の議論も反映させ、CD 案をプロジェクトリーダがまとめることとなった。

3.問題点など

－9 月に行われた IECEE による“IEC 60601-1 第三版及び ISO 14971 に関する 2 日間のリスクマネジメント・ワークショップ”の内容が報告された。ワークショップの結論としては、継続検討が必要であり、IECEE Task Force MEE を作り、リスクマネジメントのインスペクションの検討を行うことになったということである。我々としても、リエゾン参加を正式に申し込むとともに、このタスクフォースとの AdHoc を提案して、概要を検討すべきということとなった。

－アラームに関する試験をどうするかについて、SC62A セクレタリーおよびアラーム WG 主査と相談した結果をふまえ議論した結果、試験ガイドの検討は行わないとの結論となった。

－・　Dental chair 機械的安全性について、Dental chair の Dynamic Force（ウエイトテスト）は第二版では、135Kg（患者）X6（安全係数）=810Kg であるが、第三版では、1190Kg となり、要求が過剰であり、考慮を求められている。WG17 に検討を要請する。

［注］: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727
(TSC-06 様式 2007.7)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／SC62A-④**（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 11 月 29 日

（報告者記載）整理番号：H19SCSC62A②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：市川義人　報告書作成者氏名：　市川義人　（会社名）オリンパス（株）

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC62A/WG20 (半角)
SC62A/WG20	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☒その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	環境保護
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	
開催期日	2007 年 12 月 3 日 ～ 2007 年 12 月 5 日		
開催場所	（国名）独	（都市名）エアランゲン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Dr. Schroder Freimut	幹事国　ドイツ	
参加国及び参加人数	8ヶ国、主な国名 アメリカ、ドイツ、イギリス、日本、参加人数（6）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○市川義人(オリンパス(株))、		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

目的：ISO/SC62A/WG20 環境保護規格の発行に伴い残された課題を整理し規格のメンテナンスを含めた今後の活動を審議する。

成果：

・カナダは 60601-1 第３版を本年末？から強制にした。（カナダのみ）ところが、副通則、個別規格がそろっていない。さらに試験機関も第３版に対応できていない。こんなことは初めてであり、米国は拒絶している。来年４月の TC62 会議でも各国から意見を出す。

・各企業で環境への影響を考慮し設計を行う上で、供給業者（外注）に対するハザーダスサブスタンスの使用に関する制限を材料毎の表を作成し契約を行っているが、メーカー毎の表であるため外注への負担が大きい。AAMI 等から共通な表が将来できないか。今後 AAMI と検討する。

・60601-1-9 は現状のままでは MDD にハーモナイズされない。MDD で取り扱う Safety と ISO 14971、IEC 60601-1-9 で取り扱う safety の範囲に差がある。ステートメントドラフトを作成し、今後 Eup 等に働きかけ、最終的には MDD の改定も視野に入れる。

・　英国では 60601-1-9 を MDD にハーモナイズするのに反対している。理由は、MDD は安全にかかわる要求事であり、環境保護とはかみ合わない。Ucomed が反対しているようだ。WG20 としてはハーモナイズすることで意見一致した。

その他：.課題を抽出し今後検討を行うこととなった。

(1) Alignment of this standard with the 3rd edition.
(2) Preparation of guidance document.
(3) Support of test hourses reguratory authorities and notified body.
(4) Educationg countory goverments about Standard, eg. China.
(5) Promoting the standard among other industres/user groups
(6) Clarification of parts of Standard and assistance with interpretation.
(7) Liaison with technical committees developing similar standards.
(8) Use of other standards in conjunction with this Standards.

6.IEC Environmental Roadmaps.

・IEC62430　電気機器の環境保護規格が進行している（TC111）規格間の矛盾がないように働きかける必要がある。TC111 のセクレタリーに対して働きかける。

次回の会議　2008 年 7 月 14 日―16 日　メンテナンス会議　UK　サウスエンド

[注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 知的基盤部標準・安全グループ

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／SC62D-①**（事務局記入）

国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 11 月 20 日

（報告者記載）整理番号：H19SC62D②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：内藤正義　報告書作成者氏名：市川義人　（会社名）オリンパス(株)

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	IEC/SC62D/MT16 (半角)
SC62D/MT16	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称 (日本語)	医用光学機器（内視鏡）
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☐同時開催	
開催期日	2007 年 11 月 5 日 ～ 2007 年 11 月 7 日		
開催場所	（国名）ドイツ	（都市名）リューベック	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mattias Marzinko	幹事国　ドイツ	
参加国及び参加人数	2ヶ国、主な国名 ドイツ、日本、参加人数（3）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○市川義人		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1．目的

IEC60601-2-18 医用光学機器第３版の CD に対する各国コメントに対する方向付けおよび CDV の作成

2.成果

・全コメント２１件中 14 件が日本コメントであった。日本意見 14 件はすべて承認された。された。

・各国コメントの方向付けを完了し、CDV の作成が完了した。

・IEC60601-2-57（美容のための高輝度光源装置）の適用範囲があいまいで、IEC60601-2-18 でカバーする光源装置も含まれ手しまう可能性があり矛盾が生じるため、2-57 の規格は、2-18 では適用しないことを盛り込んだ。

・GHFT で作成された Essential Principles of Safety and Performance of Medical Devices (GHTF/SG1/N41R9:2005)と個別規格の要求事項の対比表を付属書に盛り込んだ。

・2008 年２月に CDV 発行を狙うが、仏語が必要な場合プラス２ヶ月となる。IEC セントラルオフィスに確認する　となった。

3．今後の日程

・CDV　2008 年２月

・FDIS　2008 年８月

・IS　2008 年 12 月

・次回会議は 2008 年４月の TC62 総会にあわせて実施する予定。

4．問題点

・カールシュトルツが、事業の効率化のため品質、法規制の縮小のため、コンビーナーが退職しﾄﾞﾚｰｶﾞｰﾒﾃﾞｨｶﾙに転職した。ドレーガーでは医用光学機器は扱っていないため、コンビーナー継続は困難。ドイツ国内委員会で検討することとなった。

・英国の新メンバー欠席（最近交代した）にセクレタリー就任を依頼する必要がある。（ネイティブが必要）

・米国のメンバーがあまり参加できていないおよび、試験センターのメンバーもいないため参加の打診を今後検討する。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11(三井住友海上別館ビル)　Tel:03-3518-6435　Fax:03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：**5-3／SC62D-②**（事務局記入）

提出日：2007 年 12 月 10 日

（報告者記載）整理番号：H19SC62D⑯

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：内藤正章　報告書作成者氏名：兵後充史　（会社名）日本光電工業(株)

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC62D/JWG7 (半角)
SC62D/JWG7	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称 (日本語)	自動式非観血血圧計
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	
開催期日	2007 年 12 月 3 日 ～ 2007 年 12 月 5 日		
開催場所	（国名）USA	（都市名）タンパ/フロリダ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Dr. S. Mieke/ D. Osborn	幹事国　ドイツ	
参加国及び参加人数	6ヶ国、主な国名 アメリカ、ドイツ、イギリス、台湾、オーストリア、日本、参加人数（18）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 白崎修(オムロンヘルスケア)、津崎晃一(慶応大学)、○兵後充史(日本光電)		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

ISO/TC121/SC3 と IEC/SC62D の Joint Working Group (JWG7)で、次の個別規格制定作業が進んでいる。

(1)ISO IEC 80601-2-30 MEDICAL ELECTRICAL EQUIPMENT –Part 2-30: Particular requirements for basic safety and essential performance of automated type non-invasive sphygmomanometers

(2)ISO IEC 81060-2 :Non-invasive sphygmomanometer – Clinical validation of automated measurement type

今回の JWG7 の会議では、'07/08 に配布された 81060-2 WD2 に対し各国より寄せられたコメントを討議した。

[討議内容と討議結果]

(1)81060-2 自動式血圧計の臨床評価基準

1)聴診法基準臨床評価の被験者数 85 名について、統計的な根拠が薄弱であることを示し、被験者数の再検討を主張したが、85 名は ANSI,EN 等の規格で旧来から実績があるということで、再検討について各国委員の賛同を得られず、現行通りの被験者数(85 名)を採用することとなった。

2)観血法基準の臨床評価は、倫理的な理由から充分な被験者数が得られないため、観血法基準でしか評価できない被験者群に限定することを主張したが、参加委員の賛同が得られず、現行通り、観血法基準でも被験者群は限定しないこととなった。

3)観血法の基準値を拍毎血圧値の平均値(平均値基準)とするか、拍毎血圧値の平均値+/-1 標準偏差の幅を持たせる(Band 基準)かについて議論があった。日本委員は平均値基準が妥当と主張したが、USA およびドイツの委員より、従来規格(ANSI/AAMI SP-10 など)で不都合は生じていないこと、および、本規格で新たに提案されている+/-1 標準偏差の Band は旧来の規格より厳しくなっていることが示され、最終的に+/- 1 標準偏差の Band 基準が採用された。

4)不整脈例での評価基準を日本から提案したが、データ数が不十分で根拠が薄弱であるということで、採用は見送られた。本件については別途正式に論文で発表した後、再度提案することを示唆された。

(2)その他：JWG7 で策定していた非自動式血圧計規格(ISO 81060-1)が'07/11 に ISO より正式発行された。

(3) 今後の JWG 7 開催

自動式血圧計規格(80601-2-30)DIS コメント審議と FDIS 案作成：'08 年 4 月 7～11 日　場所：香港 / 中国

臨床評価規格(81060-2)DIS コメント審議と FDIS 案作成：'08 年 12 月 1～5 日　場所：リュブリャナ / スロベニア

[注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／TC87-①**（事務局記入）

国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 11 月 30 日

（報告者記載）整理番号：H19TC87①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：**木下 博之**　報告書作成者氏名：**岸本眞治**　（会社名）**日立メディコ**

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC87 (半角)
TC87	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称 (日本語)	超音波
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	
開催期日	2007 年 10 月 15 日 ～ 2007 年 10 月 19 日		
開催場所	（国名）日本	（都市名）神奈川県三浦郡葉山町	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Dr. John G. Abbott	幹事国　英国	
参加国及び参加人数	14 ヶ国、主な国名 日本、英、米、独、仏、伊、オランダ、中国、韓国、他、参加人数（52）		
日本人出席者（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎（JEITA 電子）] 森(東工大)、内山(東芝)、工藤(北大)、内藤(アロカ)、梅村(東北大)、斉藤(鈴鹿医科学大)、岸本(日立メディコ)、 山崎(東芝)、菊池(産総研)、上羽(東工大)、柴田(ファインセラミックスセンタ)、近藤(徳島文理大)、他オブザーバ7名		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

10 の WG の会議が 4 日間行われ、最終日の Prenaly で報告が行われた。15 年ぶりとなる日本開催で前回のニューオリンズ会議に比べ研究機関からの参加者がやや少なかったが全般に盛況であった。

・WG3(強力超音波振動子)：IEC61985（ピエゾと磁歪振動子の特性と測定法）の集中審議。森委員長の提案を大幅に取り込む。また柴田委員が PJ リーダとなり「大出力圧電素子の測定規格」を日本から NP 提案する。

・WG6(集束形トランスデューサ)：治療用強力超音波の測定規格 2 種の NP：出力計測と音場計測の進め方の検討を開始した。これに合わせ、WG の scope を変更し HITU（治療用高強度超音波）を組込む。

・WG7(超音波手術器)：IEC61205（歯科スケーラ）、IEC61846（圧力パルス結石破砕器の電界特性）、IEC61847（外科システム）の 3 規格についてメンテナンス審議した。

・WG8(超音波音場測定)：IEC62359 Ed2(MI/TI 指標の定義規格)の CD1 で音響強度測定での最近接距離を 3㎜以下にする案、TIB 指標算出式、及び探触子自己発熱による伝熱作用を追加する件を中心に討議。診断装置への影響が大きく 12 月発行予定の CD2 をもとに妥当性を評価し日本の対案を検討する。IEC62359 Ed3（MI/TI の定義規格）は Thermal Dose という新規理論にもとづく指標の特徴及び現行の指標との差異を検討。

・WG9(パルスエコー診断装置)：診断装置の性能評価手法の IS の CD、TS の NP 案を各 1 件審議。なお NP 採択落選の「三次元構造ﾌｧﾝﾄﾑを用いた超音波装置の評価法 TS 案」が頑強な反対にも拘らず蒸し返され採択扱いとなった。

・WG10(血流測定/表示機器)：ｶﾗｰﾄﾞﾌﾟﾗ装置の性能評価仕様案を審議。近藤委員が PJ リーダとして NP 提案する方針。

・WG12/14(照射パラメータ/パラメータの適用)：超音波照射量推測のための非線形補正法 TS は 3 年後に IS 化を検討。温度ﾌｧﾝﾄﾑ TS の問題点を指摘したが改訂の意思が無い様子。これに対し赤外線サーモグラフィでの温度分布観察法を代案として日本がプレゼンテーションしたが好評を得て新規項目に採用される見込み。

・WG13(用語)：TC1 の IEV、IEC60050-802：Ultrasonics, section 1,”Intensity”を含む 15 種の用語が TC87 では不整合である状況を SMB に報告し今後の対応策を打診する。

・WG15(水中超音波)：水中音響用ハイドロホン規格の方針は、仕様・使用法・校正の 3 規格作成することで合意を得た。

・Prenaly：WG6 の HITU は SC62D と連携して進める事とした。WG9 で指摘した IEC 規格と特許の関連を「IEC の取り決め事項」を参照し再度確認した。WG12/14 の人員と役務の重複を解消し活動効率を向上すべく WG14 のタスクを改訂し WG12 を吸収する。なおエキスパートのマージも IEC 事務局の了解が得られた。WG13 は今後 TC87 内で用語の整合性調整のため、各 WG ｺﾝﾍﾞﾅｰをﾒﾝﾊﾞｰとして取りまとめ scope にも反映する。

次回の TC87 会議は、2009 年夏、韓国を予定する。なお WG8,9,13,14 は 2008 年夏に纏めて会議開催予定。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。

(社)電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／TC87-②**（事務局記入）

様式 9

国際標準化対応支援委員会　御中

提 出 日：	2007 年 11 月 30 日
予算番号：	H19TC87①

国際会議日本開催
経費収支報告書

1. 組　　織：　番　号　　TC87
   名　称（日本語）　超音波
2. 会　議　名：　TC87（☐単独開催 ☒同時開催）
   ☒TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他
3. 開 催 期 日：　2007 年 10 月 15 日 ～ 2007 年 10 月 19 日
4. 開 催 場 所：　神奈川県三浦郡葉山町（湘南国際村センター）

単位:円

収入の部		支出の部	
科　目	金　額	科　目	金　額
国際標準化対応支援委員会	1,065,469 円	会議室(3 室+事務局+Plenary)	873,072 円
超音波専門委員会	1,065,469 円	設備費等(ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀ,LAN 等)	217,045 円
	円	懇親会費	504,000 円
	円	菓子・飲料等	94,021 円
	円	印刷費	32,408 円
	円	USB メモリ	81,744 円
	円	事務処理委託料	328,648 円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
合計 (a)	2,130,938 円	合計 (b)	2,130,938 円
		(a) － (b)	0 円

補助限度額:［会議出席者数（日本人登録メンバー12 人＋外国人 40 人）］×会議開催日数 2 日×1.5 万円＝1, 560, 000 円

補助請求金額　1,065,469 円
［補助基準・運用規定の補助率（50 %）。上限は 300 万円。］

以上の通り報告致します。　　2007 年 11 月 29 日

申請責任者：　木下　博之

※本報告書は、**(様式4)「国際会議報告書」**に添付して下さい。

(TSC-06 様式 2007.9)

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／TC91-①**（事務局記入）　　様式 4

国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 10 月 20 日

（報告者記載）整理番号：H19TC91②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：西山　和夫　　報告書作成者氏名：　土生　正　（会社名）(株)村田製作所

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC91 (半角)
TC91/WG1	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	電子実装技術
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2007 年 10 月 17 日		
開催場所	（国名）韓国	（都市名）ソウル	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	W. Huck （コンベナ）	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	6ヶ国、主な国名 日本、韓国、ドイツ、英国、フィンランド、ブラジル、参加人数（12）		
日本人出席者（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○土生（村田製作所）、○大島（ニチコン）、小泉（JPCA：国際副幹事）、西山（ソニー：国際幹事）、寺田（経済産業省）、細川（JEITA）		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1. 目的・使命

審議段階のIEC 61760-3(スルーホールリフロー部品の要求事項)のCD案の審議、今後のWG1のプロジェクト及びIEC/TC47/WG4（MEMS）に対するリエゾン体制の構築への賛同を得る。

2. 審議概要

2.1　IS発行文書の確認（前回会議以降）

IEC 62421：モジュールのGS, IEC 61193-2（component and packageのサンプリングプラン), IEC 61760-2（SMDの輸送保管条件)

2.2　IEC 61760-3(スルーホールリフロー部品の要求事項)のCD案の審議

NPはExpert5カ国, 賛成100％で承認され、RVN発行済み。各国コメント及びNPドラフトで記載不十分であった箇所に対して審議し、CD案を作成した。日本から提出した“Requirement of the components …からStandard method for the specification of components …へのタイトル変更”, “Scopeの明確化”及び“TC47を中心としたProduct TCとの協調が必要”については採用された。但し、Product TCとの協調に付いては今後のCD文書での審議が重要となる。

4.1 General requirement, Fig.3の事例追加, 4.6.4.2 Terminal lengthの記述変更, 6.1 Printing of solder paste等の記述を審議しCD文書案を作成した。

今後、コンビナがWG1メンバに配信して11月中にメール審議を行い、12月1日に国際幹事にCD文書を提出する事とした。

2.3　IEC 62090のメンテナンスについて

各国から改正要求が無かったことから、MRDを2009年から2010年に延ばす事で合意した。

2.4　New Business

1) RFID：インフィニオンの部品の包装ラベルへの適用に関するﾋﾞﾃﾞｵが紹介されたが、見ることができず資料配布となった。具体的な標準化審議には時期尚早としながらも、次回にドイツから技術文書を準備する意向が伝えられた。

2) Repair processに対する部品の要求事項：委員からの具体的な提案は無かった。IEC 61192-5を有効的に活用する為に部品に対する追加の規定の必要性についてTC91委員に問い合わせる事とした。

2.5　その他

MEMSの標準化動向及びその中のIEC 62047-9:Bonding strength measurement in MEMS packagingについて紹介し、今後TC47/WG4に対してTC91がリエゾンとなることを提案することで合意した。

3．次回会議

TC91Plenary 会議の日程にあわせ 2008 年 10 月に開催する。

(社) 電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／TC91-②** (事務局記入)

様式 4

国際標準化対応支援委員会　御中

(事務局記載)　整理番号：H19TC91② (半角)

提出日：2007 年 11 月 30 日

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：西山　和夫　　報告書作成者氏名：　梅垣　淳一　(会社名) 日本電気 (株)

会議名 (半角)	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC91
TC91 WG2	☐ TC ☐ SC ☐ TA ☒ WG ☐ PT ☐ その他		
	☐ TC ☐ SC ☐ TA ☐ WG ☐ PT ☐ その他	名称 (日本語)	電子実装技術
	☐ TC ☐ SC ☐ TA ☐ WG ☐ PT ☐ その他		
	☐ TC ☐ SC ☐ TA ☐ WG ☐ PT ☐ その他	☐ 単独開催 ☒ 同時開催	
開催期日	2007 年 10 月 16 日 ～ 2007 年 10 月 17 日		
開催場所	(国名) 韓国	(都市名) ソウル	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	(代理) Dieter Bergman (米国)	TC91 幹事国　日本	
参加国	5 ヶ国、主な国名 米国、英国、ドイツ、韓国、日本 (20 名)		
日本出席者	[○：補助対象者…(例)：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 多田邦雄 (金沢工業大学)、山本克己 (テクノオフィスヤマモト)、○荒金秀幸 (ソニー)、○梅垣淳一 (NEC)、于強 (横浜国立大学)、山本敬一 (富士通)、萩尾浩一 (溶接協会)、柴田明一 (JPCA)、西山和夫 (TC91 国際幹事)、寺田康裕 (経済産業省)、細川照彦 (JEITA)		

議事概要 (背景・目的・成果・問題点など)　(この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。)

コンビナは今回もバーグマンが代行した。鉛フリーはんだ材料規格等、既存のプロジェクトが完了し、CD段階のボイド評価基準を中心に審議された。改訂案件や新規提案についてのアクションアイテムが確認された。

日本から提案したはんだ材料新規追加のためのISOとのjoint meetingは承認された。(19日のplenary会議でも承認された)

1)Pj#61190-1-4 :導電性接着剤材料

・前回のスコープ案に基づき、ドイツ、日本ほか、各国で具体案を検討する。

2)ボイドの評価基準

・CD文書(91/707/CD)の各国コメントにつき審議した。正式なコメント締切は11/2のため、現在集まっている英国、ドイツ、日本のコメントについて審議し、継続審議分と今後出される追加のコメントについてはe-mail審議し、合意が得られればCDVとして発行する予定。CDV投票期間は5か月のため、CDVコメント審議は次々回会議となる見込み。

・継続審議する主なコメントは、①実験評価結果と評価基準の合理性整合性②製品特性ごとの評価基準(米国提案)。①は各国から文献、報告書を持寄り審議する。②は参考情報としての記載にとどめる方向で対応検討する。

・今回、英国からコメントがあった最近のX線透視装置と性能については、英国に追加情報提供を依頼した。

3)IEC-61191s and 61192sのメンテナンス

・はんだ付け品質基準(61191sと61192s)の改訂に向けたアクションアイテムを確認した。主な改訂点は、鉛フリー対応と引用文書update。必要により、日本も改訂作業を一部分担することも検討する。

4)鉛フリー対応ロードマップ "Arakane Map"

・Arakane Map の最新版を紹介した。

5)Pj#61190-1-3:鉛フリーはんだ材料の改訂とISOとのjoint meeting提案

・ISが発行されたばかりだが、急速な技術進歩に伴う新規材料追加要求があり、迅速な審議を行うため、日本からISOとのjoint meetingを提案し承認された。11月のISO会議で鶴田委員が同様の提案を行い、承認後正式な手続きに入る。

6)次回会議

・2008 年 5 月 21 日(水)-22 日(木):アトランタ(米国)。必要があれば、6 月 JPCA ショー期間中の追加開催も検討する。

・2008 年 9 月または 10 月:米国。(plenary 会議で 10 月 13～17 日:サンノゼ(米国)で仮決定)

[注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。

（社）電子情報技術産業協会
国際標準化対応支援委員会　御中

運営委員会・資料番号：**5-3／TC91-③**（事務局記入）

様式 4

（事務局記載）　整理番号：H19TC91②

提出日：　2007 年 10 月 20 日

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：　西山　和夫　　報告書作成者氏名：　春日　壽夫　（会社名）NEC ｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ(株)

会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC91
TC91/WG3	☒TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称 (日本語)	電子実装技術
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐ 単独開催 ☒ 同時開催	
開催期日	2007 年 10 月 17 日 ～ 2007 年 10 月 18 日		
開催場所	（国名）韓国	（都市名）ソウル	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	春日 壽夫	TC91 幹事国　日本	
参加国	8 ヶ国、主な国名 米国、英国、ドイツ、フィンランド、ブラジル、中国、韓国、日本（28 名）		
日本出席者	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○気賀（ソニー）、○坂本（オムロン）、大島（ニチコン）、苅谷（芝浦工大）、荒金（ソニー）、山本（ﾃｸﾉｵﾌｨｽ山本）、梅垣（NEC）、山本（富士通）、西山（ソニー：TC91 国際幹事）、萩尾（ニホンゲンマ）、○春日（NEC ｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ：WG3 国際ｺﾝﾋﾞﾅ）、多田（金沢工大）、寺田（経産省）、細川（JEITA）		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）　（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

目的：電子実装技術にかかわる実装後の試験方法につき審議している。

成果：

1. IS 発行文書（前回会議以来、発行された IS が報告された：日本担当 2 件）

1-1) IEC62137-1-1 Ed.1: (pull test：引っ張り試験)：ISO7-07-11 / MRD: 2011 [高橋 / 気賀]。

1-2) IEC62137-1-2 Ed.1: (shear test：せん断試験)：ISO7-07-25 / MRD: 2011 [高橋 / 気賀]]。

（昨年のプレナリ会議以降は、併せて 5 件）

2.鉛フリーはんだに関する標準化提案（日本担当：6 件中 4 件リーダ、1 件共同リーダ）

2-1) Pj# 60068-2-20（リーダ：ドイツ、共同リーダ/日本：大島）：リード付きデバイスのはんだ付け性とはんだ耐熱性試験→91/640/CDV の 91/693/RVC が 6/15 に発行された。 **[ACDV]**

・RVC の審議結果を基に、FDIS の draft を準備中（10/30 までに完成予定で、国際幹事へ送付予定）

2-2) IEC60068-2-44 改正（リーダ：ドイツ）：はんだ付け試験のガイダンス

・はんだ付け試験のガイダンスのコンセプトを検討（12/31）

・並行して、MCR 発行の手続き（MRD を 2009 年に更新）を確認しておく。（国際幹事）

2-3) Pj#60068-2-83（リーダ：大島）：SMD のはんだ付け性試験/ソルダペーストを用いる平衡法(91/682/CD、91/725/CC が 9/21 に配布） **[CDM]**

・多数の基本的なコメントが出されているため 2CD となる予定。本 Pj を進めるに当たっては以下の如く；

①再度スコープに付いて Pj メンバ間で確認する

②コメント内容不明確な件については各 NC に確認を取り、observation をまとめる。

③-2-69 との差を示す比較データを準備する。

以上を 12/31 までに行い、

④2CD の draft を国際幹事に送付（目標 3/31 まで）の 1 ヶ月前に、WG メンバに送付する

Pj# 62137-1（リーダ：高橋）：接合強度試験方法

2-4) part3(cyclic drop test:落下試験)（リーダ：気賀）：91/708/CDV(8/10) **[CCDV]**

・Observation 付きの CC の draft を国際幹事に送付（1/31 まで）。

2-5) part4(Cyclic bending test:繰り返し曲げ試験（リーダ：気賀）：(91/649/CD) **[1CD]**

・CC の draft を国際幹事は CO 送付（10/30 までに）、今回 CD のコメントにつき審議した結果に基づき CDV の draft を国際幹事に送付した(10/17)ので国際幹事は CO に送付する（10/30）

2-6) part5(Mechanical shear fatigue test せん断疲労試験)（リーダ：苅谷）：(91/650/CD) **[1CD]**

・CC の draft を国際幹事は CO 送付（10/30 までに）、今回 CD のコメントにつき審議した結果に基づき CDV の draft を国際幹事に送付した(10/17)ので国際幹事は CO に送付する（10/30）

３.新規提案の紹介

3-1)鉛フリー対応のロードマップ（荒金マップ）最新版を紹介した。

3-2)新提案（日本提案 2 件：日本単独提案、2 件共同提案）

ⅰ）マイグレーション試験方法（独、日）

・NP 待ちであることが報告された。

・ドイツ NC がマイグレーションに関する規格につき準備中であることが報告された。Huck 氏(独)が Co リーダとしての戸井さんと情報交換しながら提案をまとめることになった（次回会議において紹介）。また、ISO16750 においてもマイグレーションについての規格があるとのことから、内容を確認していくことになった。

ⅱ）外部応力によるウィスカ（External mechanical stress of whisker Growth）（独、日）

（研究 TG メンバは；Michael Krapp Walter Huck、Chris Hunt、大島、森内、坂本、気賀）

・Krapp 氏(独)と坂本氏が既存の 60068-2-82 のシリーズとして規格化をするための提案がなされ、次回に具体的な提案を行なうことになった。

・このためのタスクフォースメンバとして、McCullen 氏（米）、Hunt 氏（英）、Park 氏（韓国）が参加することになった。

ⅲ）はんだの融点測定（Measurement of melting temperature of solder alloy）（日）

・萩尾氏が、はんだの融点測定に関する規格提案の方針につき提案を行い、従来は 61189-7 の新規格とすることになっていたが、61189-5 への追加規格とすることとし、次回会議で審議することになった

ⅳ）IEC62137 シリーズを使用するためのガイダンス（日）

・山本(敬一)氏が、JEITA ET-7409 規格を元に新規制定提案することを提案し、次回会議で審議していくことになった。

４．メンテナンスサイクル文書の確認

・メンテナンスサイクルの状況が確認された(IEC 60068-2-20、IEC 60068-2-44、IEC 60068-2-58、IEC 60068-2-77、IEC62137)

ⅰ）IEC60068-2-44 改正（リーダ；Huck 氏）：国際幹事に MCR を発行（MRD を 2009 年になっていることを含めて）することを確認

ⅱ）IEC60068-2-58 改正(リーダ：大島氏)：MRD が 2010 年となっていたが、2009 年にすること。および提案文書をまとめて MCR を 1/31 までに発行することになった。新たなメンバとして、McCullen 氏（米）、Lee 氏（韓）

ⅲ）IEC60068-2-77 見直し(リーダ：土生氏)：MRD を 2011 年に変更すること、審議文書をまとめて MCR を 2009 年に提出することになった

ⅳ）IEC62137 見直し(リーダ：梅垣氏)：MRD は 2009 年のままとし、2008 年において 62137-3 の番号にする審議文書をまとめることになった。

５．次回会議

1) 2008 年 5 月 22 日か 23 日：米国ジョージア工科大学で（第 9 回 JIC と同時期開催）
（TC47WG2 との合同会議を併催）

2) 2008 年秋　米国サンノゼ

[注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11(三井住友海上別館ビル)　Tel:03-3518-6435　Fax:03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／TC91-④**（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 11 月 14 日

（報告者記載）整理番号：H19TC91②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：西山　和夫　　報告書作成者氏名：　山内　秀雄　（会社名）ソニーEMCS（株）

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC91 (半角)
TC91/WG12	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	電子実装技術/プリント基板設計
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2007 年 10 月 16 日 ～ 2007 年 10 月 16 日		
開催場所	（国名）韓国	（都市名）ソウル	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Dieter W. Bergma	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	4ヶ国、主な国名 アメリカ、ドイツ、韓国、日本、参加人数（8）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○山内 秀雄(ソニー)、○山本 敬一(富士通)、山本 克己(TOY)		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

・背景：US より、IEC 61188-5-1 の変更案が出され、これに対し、日本より改善案を提案し、その盛込み審議を行う。
・目的：① IEC 61188-5-1 メンテナンス文書の審議。
② IEC 61188-7 Zero Orientation NP/CDV 状況
③ 3D 形状ルールに関する　日本提案
・成果：(1) メンバーの確認後、今回の議事内容の確認と前回議事録の確認を行い、議事内容の審議に入った。
(2) IEC 61188-5-1(Printed boards and printed board assemblies -Design and use -Part 5-1
Attachment (land/joint) considerations Generic requirements メンテナンス内容の審議。
前回ロンドン会議にて、日本より提出した改善案はほぼ了承されたが、まだ、審議に至らなかった
設計ロジック表の構成について、今回日本より改善案を出し、審議を行った。
1)　レベル 3 のみ round-off を小さくする。　OK
2)　コートヤード毎の round-off 追加。　OK
3)　分類表にロジック表の表 No 追加。　OK
設計ロジック表の数値そのものは、今回特に触れず、変更部分を差し替えて CDV(Committee Draft
for Vote)として提出する(US)。
(3) IEC 61188-5-1 その他
US より、スルーホール(リード挿入部品のこと)を追加したい、という話があった。現在 IPC-7251 と
して検討中である。ちなみに、SMD は、IPC-7351
(4) IEC 61188-7(Electronic component zero orientation for CAD library construction)の審議
US からは、ソウル会議で説明する旨の CC が出ていたが、具体的な提示はなかった。12 月 CDV 投票
に対しても特に問題なし。
(5) TC93/JWG11(Data Transfer) との関連について
従来、TC93 の元に JWG11 があったが、これを TC91 の元で活動するように枠組みを変更したい、
という話があった。　ドイツも賛成したため、WG としては、異論なしという形でプレナリに報告。
承認された場合、テーマの幅が広がるため、対応検討が必要。
(6) 3D 形状ルール　について
日本で準備した、3D 形状ルール（概要・ランク分け提案など）について説明した。
US/ドイツ/日本/韓国　がエキスパート OK であり、日本から NP(New Work Item Proposal) を出す
ことになった。
(7) 次回
次回は、6/9-10 東京予定。　プレナリで承認されたら Data Transfer を含む。

---以上---

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／TC91-⑤**（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 11 月 14 日

（報告者記載）整理番号：H19TC91②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：西山　和夫　　報告書作成者氏名：　潮　憲樹　（会社名）ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ　ｴﾚｸﾄﾛﾆｯｸﾃﾞﾊﾞｲｽ(株)

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC91 (半角)
PT62468,Ed.1	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☒PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	電子実装技術
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2007 年 10 月 16 日 ～ 2007 年 10 月 16 日		
開催場所	（国名）韓国	（都市名）ソウル	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	PT Leader：潮　憲樹	幹事国　Japan	
参加国及び参加人数	5ヶ国、主な国名 アメリカ、ドイツ、韓国、ブラジル、日本、参加人数（12）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○潮(PED),大島(ニチコン)、山本(テクノオフィス)、西山(ソニー)、荒金(ソニー)、土生(村田製作所) 春日(NECエレ)、細川(JEITA)		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

特定化学物質の表示の規格化のプロジェクトである IEC62468,Ed.1 に対して、TC111 より、プロジェクト内容が重複をしているので活動の停止を ACEA を通して SMB へ要請がなされた（ACEA/144/RM）。SMB は TC91 と TC111 の Officer による合意した意見を聞いてから判断をするとの見解がなされた（SMB/3483/R）。TC91 と TC111 の Officer 会議が持たれ、以下の合意された 4 項目が SMB へ報告された（91/738/INF）。

①Marking of presence/absence of 6regulated substances are not be on parts/subassemblies and expect an internal container
②Only soldering material is on assembled board. The indication of soldering material is necessary for assembled board manufacturing such as reflow and rework processes. It is a kind of qyality control matter, and is not material declaration one.
③If testing procedure of chemical substances is necessary for the standard, the current Annex B of 91/642/CDV will be replaced by another expression such as "Testing procedures which are now being developed by TC111 will be utlized.
④TC91 will discuss how to handle the 91/642/CDV at its plenary meeting to be held on 19th October, 2007 in Korea. In case that TC91 decides to put forward the project, the title will be modefied for 2nd CD to meet the above concept.

この合意内容に基づき、2nd CD を検討すべく、91/729/RVC の Observation の確認をした。

米国代表の Bergman 氏より、J-STD-609 が TC91 より提案予定(PAS 提案)であるとの報告があり、TC91 としては各国の NC が個別に対応することになった。

ドイツより欧州としては、はんだ表示の必要性は認めるものの、特定化学物質の含有・非含有表示の必要性を感じないとの意見があり、折衷案として韓国から、規格を３分割しより具体的な規格にしてはとの意見があった。
これを受け入れ、以下の分割案を合意した。

①62468-1：Marking method of solder designation for mounted board, used in electronic wquipment.
②62468-2：Marking method of presence and/or absence of six chemical substances for material. used in assembly process of equipment and components. (Material: solder, solder paste, flux, coating resin, solder resist)
③Marking method of presence and/or absence of six chemical substances on component packing label used in electronic equipment.

上記意見を PT としての意見とし、TC91/WG1Convenor の W.Huck 氏より NP からの発行か 2nd-CD からの発行かの判断も含めて、Plenary 会議で確認を頂く事とした。

［注］: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／TC91-⑥**（事務局記入）

国際標準化対応支援委員会　御中

（事務局記載）　整理番号：H19TC91②

提出日：　2007 年 11 月 14 日

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：　西山　和夫　　報告書作成者氏名：　西山　和夫　（会社名）ソニー（株）

会議名（半角）	区分	組織番号（TC/SC/TA）	TC91
TC91 Plenary	☒ TC ☐ SC ☐ TA ☐ WG ☐ PT ☐ その他		
	☐ TC ☐ SC ☐ TA ☐ WG ☐ PT ☐ その他	名称（日本語）	電子実装技術
	☐ TC ☐ SC ☐ TA ☐ WG ☐ PT ☐ その他		
	☐ TC ☐ SC ☐ TA ☐ WG ☐ PT ☐ その他	☐ 単独開催 ☒ 同時開催	
開催期日	2007 年 10 月 19 日 ～ 2007 年 10 月 19 日		
開催場所	（国名）韓国	（都市名）ソウル	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Dieter Bergman	TC91 幹事国　日本	
参加国	8 ヶ国、主な国名 米国、英国、ドイツ、フィンランド、ブラジル、中国、韓国、日本（28 名）		
日本出席者	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○多田先生(金沢工大)、春日（NEC エレ）、梅垣（NEC）、大島(ニチコン)、土生（村田製作所）、 荒金(ソニー)、萩尾（日本ゲンマ）、柴田（JPCA）、○山本(ﾃｸﾉｵﾌｨｽ山本)、小泉（JPCA:国際副幹事） ○西山(ソニー：TC91 国際幹事)、寺田(経産省)、○細川(JEITA)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）　（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

IEC/TC91(Electronics Assembly Technology)Plenary meeting を各 WG 及び Project Mtg.と合わせて韓国（Seoul）にて 開催した。　尚、本会議には経済産業省(METI) からも出席して頂いており、METI と KATS（韓国標準化公社）Member との昼食会を設ける事で日韓の技術標準化の連携を強化・深めることも図っている。

Plenary 会議の概要は以下の通りである。

1．議長から前回の TC91 Plenary Mtg.（ロンドン開催）議事録の概要が説明され承認された。

2．IEC Central Office からの連絡及び SMB 関連報告

・TC91 を担当する CO の Dennis Chew 氏及び Suzanne Yap さんから IEC Global reach (Brazil Sao-paulo にオフィスを開設)の紹介と、SBP(Strategic Business Plan)の概要説明と提出の要請があった。

・Secretary から前回の Plenary 会議でのコメントを反映した SMB へのレポートの概要を報告した。

3．各 Working Group からの活動報告

3-1）WG1: Convenor の Huck 氏から WG1 活動の概要が報告された。WG1 で審議している規格 IEC61760-2, 62421 及び 61193-2 については既に IS として Publish された。また IEC61760-3(Requirements to the specification of components for through hole reflow(THR)soldering)は CD 文書を議論しており、12 月の初めに Secretary に送付される。

・ドイツから RFID に関する Technical report を検討している事が紹介され、次回の Mtg.で Infineon の基礎検討をベースにした技術レポートが報告される。

また TC47/WG4 で、MEMS に関するテスト方法などの規格化が検討されているが、TC91 WG1& WG3 は TC47/WG4 とリエゾンとして連携していく事が提案され、承認された。

3-2）Marking: 同じく Huck 氏から IEC62468 に関する検討結果が報告。

91/642/CDV は Reject されたが、Project として TC111 とのオフィサー会議からの提言、また各国からのコメントを反映して、実装済み基板への鉛表示、実装プロセスで使われる材料への表示、部品の梱包表示の 3 つの document に分割して進めていく事が提案された。

・Marking の規格については Secretary から DC 文書を回覧し、各国から上記の進め方で良いか？また 2nd-CD か NP

から進めるかの意見を聞く事とした。

3-3）WG2: Convenor 代行の Bergman 氏から以下の報告があった。

・日本提案の IEC61190-1-2,61190-1-3 は IS として Publish された。
日本提案である BGA 端子の void 評価基準は現在 CD 回覧中（～11/2）であるが、既に集まっている各国からのコメントについて審議した。

・61190-1-3 は IS が発行されたばかりであるが、新規材料の追加要求があり、日本から ISO/TC44 との Joint meeting で審議をスピードアップしたい旨が提案され承認された。

・また欧州から新しい規格として導電性接着剤の検討を進めているが、提案する前に各国との意見調整を図りたいとの提案があった。

3-4）WG3: Convenor の春日氏から以下の報告があった。

・春の会議以降、日本担当である 2 件の IS が発行された。昨年のプレナリー会議以降は合わせて 5 件の IS。
IEC62137-1-1 Ed.1: (pull test：引っ張り試験): MRD: 2011 [高橋 / 気賀]
IEC62137-1-2 Ed.1: (shear test：せん断試験): MRD: 2011 [高橋 / 気賀]

・WG3 で審議中の 6 件の文書（うち日本担当 4 件：IEC60068-2-20,60068-2-44,60068-2-83,62137-1-3,1-4,1-5）についての進捗が報告された。

・新規提案として migration 試験方法、外部応力での Whisker、はんだの融点測定法、IEC62137 シリーズを使用するためのガイダンスなどについて紹介され、各々次回に具体的な提案が行われる。

・TC47 との Joint meeting は今回は開催されなかったが、春日氏から今年の 6 月に Singapore にて行われた TC91/WG3 と TC47/WG2 との Joint-meeting の概要が報告された。

3-5）WG4: Convenor の Sober 氏が出席出来なかった事から柴田氏が代行し、WG4 活動と進捗について報告した。
IEC61249-2-31～2-38、4-14～4-17 といった非常に多くの規格が現在フランス語への翻訳段階にあり、FDIS 回覧待ちである事が紹介された。

3-6）WG5: Convenor の柴田氏から IEC60194.Ed.5 が発行された事を報告した。
独から 600 を超えるコメントがあり、これは次の Ed.6 で反映される。

3-7）WG10: 柴田氏から IEC61189-3 の 91/727/RVD が発行され、この 10 月には IS となる事が報告された。
また新規提案として GHz の高速基板伝送の紹介があったが、詳しい説明は池田氏が欠席した為になし。

3-8）WG12: Convenor の Bergman 氏から IEC61188-5 series の進捗が報告された。
61188-5-3～5-5、5-8 は RVD が発行されており、もうじき IS として登録される。

3-9）JWG9: 柴田氏から TC86 meeting と合わせて 10/8 にフランスで開催した JWG9-meeting の概要が紹介された。光回路基板に関する 3 つの文書について議論している。

3-10）JWG11: Bergman 氏から 9 月に行われた TC93 と JWG11 の会議の概要が報告された。
JWG11 は此れまで TC93 主体で行われていたが、今後は WG12 との連携もあり TC91 主導で進めていく事を TC93 でも同意した事を報告した。

4．Discussion on the efficient way of handling heavy volume of working document by UK

・BSI の Ashrafi 氏から英国では多くの規格文書を抱えているが効率的に進める良い idea はないかとの提案があり議論した。議長から TC93 として Double-Logo を使う例が紹介、また D-Liaison の活用などの意見が出された。Secretary が RM に書き込み、問題提起することとなった。

5．Publication Plan & Programme works の確認

・議長より TC91 と TC93 の Publication plan 並びに関連文書のリストが紹介された。
Programme work については会議後に Secretary と CO で確認し、修正された最新版を回覧する事とした。

6．次回会議の開催場所と日程の確認

・次回の TC91 Plenary 会議は 2008 年の 10/17（WG-meeting は 10/13-10/16）に開催。
場所はサンノゼを候補とする。

［注］: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11(三井住友海上別館ビル) Tel:03-3518-6435 Fax:03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／TC100-①**（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 10 月 14 日

（報告者記載）整理番号：H19TC100⑥

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：向井　幹雄　　報告書作成者氏名：　小町　祐史　（会社名）大阪工大

出席会議名（半角）	区　分		組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/AGS (半角)
TC100/AGS	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☒その他			
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		名　称 (日本語)	TC100 戦略諮問会議
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他			
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2007 年 10 月 8 日 ～ 2007 年 10 月 12 日			
開催場所	（国名）フランス	（都市名）アルザス		
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	小町　祐史	幹事国　日本		
参加国及び参加人数	ヶ国、主な国名 北米(1), ヨーロッパ(3), アジアパシフィック(2), 議長(1), TC100 議長(1), IEC CO(1), セクレタリ(2), ゲストおよびオブザーバ(19) 注: TC100/AGS への参加は, 国ではなく, 地域からの代表による。参加人数（30）			
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎（JEITA 電子）] ○小町祐史(大阪工大), 平川秀治(東芝), ○由雄淳一(パイオニア), 向井幹雄(ソニー), 伊賀弘幸(東芝), 南典政(松下), 松村秀一(富士通), 池田宏明(千葉大), 仲谷文雄(富士ゼロックス), 松下剛士(シャープ), 榊原宏紀(富士通), 稲垣一彦(ソニー), 高田薫(JEITA)			

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

TC100 のスコープ内の新技術に関して次の議論と決定を行った。

1. PACT 報告対応

(1) Architectural model and usecase for PIM ontology: NP を提出して投票に入ることを勧告する。

(2) Identification and classification of resources: TC100 の視点でのオブジェクト識別の重要性と要件とをさらに明確にする。

(3) Post PACT activity: PACT に関連する IEC 上位組織の再編が報告され，対応を検討した。

2. 前回案件のフォロー

(1) Accessibility Updates: stage 0 プロジェクト参加に関するレスポンスを待っている状況であることを確認し，開発対象は TR であるため，NP 提出の必要はなく，TR 原案ができ次第投票にかければよいことを確認した。

(2) Surrounding and loudness data: NP を作成するための調査研究の推進が求める。

(3) Proposal for new TA on multimedia quality: AGM に提出して承認を求める。(AGM で承認され，TC100 総会でエンドースされた。)

(4) TC100 strategy for IPTV standardization: 100/AGS(Secr.)281 を IPTV 標準化に関する TC100 戦略の第 1 版として承認。

(5) TC100 security: 100/AGS(Secr.)293 を，Security 標準化に関する TC100 戦略の改訂版として承認。さらに実際の標準化課題を明確にすることが要求された。

(6) Digital Cinema: SMPTE の発行済み Digital Cinema 関連文書と ISO/TC36 への提出内容を確認した。

(7) DVB-H market status and commercial status: Mobile TV に関する可能性，DVB-H の優位性と普及の現状等が報告された。

3. 関連技術の議論

(1) Energy efficient: M. Ellis より Energy efficient networks に関するプレゼンは受け，その意義を確認。

(2) Report of SMB/SG: SMB/SG の活動をレビューする必要があることを確認。

［注］: 1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel:03-3518-6435　Fax:03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／TC100-②**（事務局記入）

国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 10 月 29 日

（報告者記載）整理番号：H19TC100⑦

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：向井幹雄　報告書作成者氏名：古川雅通 / 稲永潔文　（会社名）（株）ケンウッド / ソニー

出席会議名（半角）	区分	組織番号（TC/SC/TA）	TC100/GMT（半角）
TC100/GMT	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称（日本語）	総合メインテナンス会議
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2007 年 10 月 9 日 ～ 2007 年 10 月 9 日		
開催場所	（国名）フランス	（都市名）アルザス	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Jhon Woodgate	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	5ヶ国、主な国名 UK, UK, DE, Australia, 日本、参加人数（9）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎（JEITA 電子）] 江崎正、○大賀寿郎、○稲永潔文、○古川雅通		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1. MT60268-5：Sound system equipment - Part 5: Loudspeakers　PL：稲永（稲永報告）

【背景および目的】JIS に記載されていて IEC 規格になっていない部分の IS 化追加提案第2弾。

【成果】CDV の 100%の賛成多数投票を経て、FDIS なしで IS 化。既に出版済みの報告。

【問題点】審議途中で DNC より、PAS62458 / 62459 を IEC60268-5 中に加える提案がなされたが、審議の結果、IEC60268-5 から独立させて別ナンバーで IS 化する、ということで承認された。

今後の PAS62458 と 62459 の方向付けを、稲永がクリッペルと相談し確認する。

2. MT60268-7：Headphones and earphones PL：大賀（稲永報告）

【背景】ドイツから MCR 発行。現在 1CD 回覧中。コメント期限が 10/12（今週末）であるが、会議当日現在(10/08)は JNC からのみコメント提出があり、受理。

【目的】時代の変化に対応したメンテナンスを行うと共に、ヘッドホンの音圧規制規制の観点から、再現性の良い測定法を提案し、音圧規制問題に関するイニシアティブを日本がとる。

【成果】AM のミーティングで、00/MT60268-7(Alsace/Secr)02、03 に基づき PL：大賀氏よりプロジェクトの進捗について説明とレビューが行われた。引き続き PM から上記日本コメントに基づき、稲永らにより提案された 100/MT60268-7(Alsace/Inanaga)04 に基づく「新しいヘッドホン・イヤホンの測定法」に関する、テクニカルな審議が行われた。活発な質疑応答の後、本件を今回の改訂の中に加えることで承認された。今後の進め方として、MT は以下のステップで改訂 PJ を進めて行くことで同意された。：

2007-07 1CD circulation (done)、2007-10 Closure of comments on 1CD

2007-12 2CD circulation including proposal discussed today、2008-03 Closure of comments on 2CD

2008-06 CDV circulation、2008-11 Closure of voting on CDV、

2009-03 FDIS circulation、2009-06 Publication

【問題点】スケジュール的に極めてタイトである。

3. MT 61606-1, -2（古川報告）

このメインテナンスプロジェクトは、2003 年 10 月規格化された、デジタルオーディオ機器の性能測定方法の規格のメインテナンス作業で、昨年 9 月、100/1145/DC 文書にてメインテナンスの可否の調査が行われた。

この調査では、GMM より１２年間据え置く提案がなされていたが、日本よりメインテナンスの必要が有ると提案し、このプロジェクトが発足した。

この件では書類上は DC 文書(100/1246/DC)でメインテナンスチームの発足を提案し、MCR(100/1286/MCR)でこのメインテナンスが認められたので、特に問題にする必要は無かったが、今回はGMMとのコミュニケーションを良くする為に、再度改定する必要性を説明し、GMMの理解を得ることが出来た。

更に、現状のプロジェクトの進行状況に関して、現在ＣＤ文書が Technical Secretary に送られているので、近々各国に配布されるはずであることの報告を行った。

ＩＳは２００９年3月の予定との報告が有り、これは承認された。

［注］: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局:**(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ**
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11(三井住友海上別館ビル)　Tel:03-3518-6435　Fax:03-3295-8727

(TSC-06 様式 2007.7)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／TC100-③**（事務局記入）

国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 12 月 6 日

（報告者記載）整理番号：H19TC100②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：向井幹雄(ソニー)　報告書作成者氏名：　平川秀治　（会社名）(株)東芝

出席会議名（半角）	区　分		
TC 100 Plenary Meeting	☒ＴＣ ☐ＳＣ ☐ＴＡ ☐ＷＧ ☐ＰＴ ☐その他	組織番号 (TC/SC/TA)	TC 100 (半角)
	☐ＴＣ ☐ＳＣ ☐ＴＡ ☐ＷＧ ☐ＰＴ ☐その他	名　称 (日本語)	AV･マルチメディア・システム･機器 TC100 総会
	☐ＴＣ ☐ＳＣ ☐ＴＡ ☐ＷＧ ☐ＰＴ ☐その他		
	☐ＴＣ ☐ＳＣ ☐ＴＡ ☐ＷＧ ☐ＰＴ ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開　催　期　日	2007 年 10 月 12 日 ～　200 年　月　日		
開　催　場　所	（国名）フランス共和国	（都市名）アルサス・コルマール市	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mark Hyman (SMPTE, USA)	幹事国　日本	
参　加　国及び 参　加　人　数	13 ヶ国、主な国名 日本、米国、韓国、中国、フランス、ドイツ、UK、参加人数（54）		
日　本　人 出席者名 (会社名)	［○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)］ ○安田浩(国内委員長)、○江崎正(ソニー、副幹事)、○南典政(松下電器、副幹事)、○平川秀治(東芝、幹事)、 小町(大阪工大、AGS 議長)、伊賀(東芝、TA1 TS)、池田(千葉大、TA2 TAM)、向井(ソニー、TA6, 7& 10 TS)、松村(富士通、TA8 TAM)、植村(電機大学出版部、TA10 TAM)他		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

総会は、最終日に行なわれ、13 カ国から 54 名が出席した。

AV リップシンク等、マルチメディアの品質を扱う新しい TA 11 "Quality for audio, video and multimedia equipment"を設置することが合意された。TAM を日本が引き受ける。

AGM で審議した Stabilized Standards の運用方法について合意した。毎年、その候補を各国 NC に諮り、リストアップすることになる。

最近、アクセシビリティの標準化が、特に IT の分野で進められており、AV マルチメディア分野での対応を検討する Stage 0 のプロジェクトを TC 100 直下に設置することで合意した。検討結果は Technical Report として発行される見込みである。

TC 100 の業務内容と計画を記載した Strategic Business Plan (SBP)について審議した。これは従来の Strategic Policy Statement (SPS)に替わる予定のもの。TC 100 の標準化目的として、AV マルチメディアで生活を豊かにするための標準化、省エネ等社会に貢献する標準化の 2 点を強調した。

リエゾン関連では、電気鉄道を所掌する TC 9 から要請のあった鉄道車輌に於ける AV&Multumeida に関連した研究課題について、新しくリエゾンを開始することになった。

今回も数多くの議題があったが、国際役員のマネジメント及び各国関係者の協力によって,成功裏に終わった。

次回の年次大会は、2008 年 11 月 17 日からブラジル・サンパウロ市で開催される予定。

［注］: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel:03-3518-6435　Fax:03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／TC100TA1-①**（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 10 月 19 日

（報告者記載）予算番号：H19TC100TA1①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：伊賀弘幸　報告書作成者氏名：伊賀弘幸　（会社名）東芝

出席会議名（半角）	区分	組織番号（TC/SC/TA）	TC100/TA1（半角）
TC100/TA1	☐TC ☐SC ☒TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称（日本語）	放送用エンドーザ機器
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2007 年 10 月 11 日 ～ 2007 年 10 月 11 日		
開催場所	（国名）フランス	（都市名）アルザス	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mr. David Felland	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	6ヶ国、主な国名 日、米、伊、スイス、豪、デンマーク、参加人数（9）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○伊賀弘幸(東芝)、稲垣一彦(ソニー)、安田浩(東京電機大学)		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

二年ぶりに開かれた今回のTA1 会議のハイライトは、下記の二件です。

1. TV 消費電力測定法(MT 62087 Ed.2.0)
   CD コメントのドラフト反映は、最終段階を迎えている。プロジェクトリーダからの TA1 会議への報告を経て、次のように TA1 から Plenary に報告して、承認された。
   - CDV は 2007 年 11 月に回付、規格化は 2008 年 8 月頃を予定している。Disk メディアが測定用ビデオコンテンツの配布に相応しい。
   - TA1 は IEC 中央事務局に対して、その Disk を適切な時期に配布できるよう準備することを要求する。

   報告者注：プロジェクトでは、Disk メディアとして、標準 DVD 以外に特にプロモーションに有効な Blu-ray と HD-DVD も必要との結論になっており、非圧縮コンテンツを準備している。これを使った圧縮、オーサリング、Disk 作成等は IEC 中央事務局が行う。

2. STB の消費電力測定法
   豪州から提案のあった STB の消費電力測定法の新規規格提案は、62087 Ed. 1.0 のスコープ内なので、メインテナンスとして、STB としてパート分けして、62087-3 のような形で進めるのが妥当との結論となり、そのように Plenary に報告し、承認された。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／TC100TA2-①**（事務局記入）

国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 10 月 31 日

（報告者記載）整理番号：H19TC100TA2①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：杉浦 博明　　報告書作成者氏名：　杉浦 博明　（会社名）三菱電機

出席会議名（半角）	区　分		
TC100/TA2 ad-hoc meeting TC100/TA2	☐TC ☐SC ☒TA ☐WG ☐PT ☐その他	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/TA2 (半角)
	☐TC ☐SC ☒TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	AV 及びマルチメディアシステム・機器/色彩測定およびカラーマネジメント
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開　催　期　日	2007 年 10 月 10 日 ～ 2007 年 10 月 11 日		
開　催　場　所	（国名）フランス	（都市名）アルザス	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	日本	幹事国　米国	
参　加　国 及び 参　加　人　数	5ヶ国、主な国名 日本、米国、英国、仏国、トルコ、参加人数（10）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○池田宏明(千葉大学)、○加藤直哉(ソニー)、○仲谷文雄(富士ゼロックス)、○杉浦博明(三菱電機)		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1．TC100 TA2(カラーマネジメント)アドホック会議

・フランス トムソン社から新作業提案が予定されている色再現範囲のメタデータ ID について議論した。
この ID を活用したテレビの制御を規格に盛り込みたいフランス(トムソン)とそれに反対する日本の意見が対立したが、結論には至らず継続審議となった。

・上記制御以外の選択肢を設ける日本案(JEITA 案)を対案として提案した。

2．TC100 TA2 会議

・今年の主な議題として、日本がリーダを務める二つのプロジェクト PT61966-2-5「オプション色空間 opRGB(リーダ；杉浦)」、MT61966-5「PDP の色彩特性測定方法(リーダ；富士通 清水氏)」が順調に進捗しており、前者は CDV(Committee Draft for Vote)投票の結果承認され IS(International Standard)発行準備中であること、後者は CDV が発行されたことが報告された。

・opRGB については、発行準備に入ってから、既に 2 ヶ月以上が経過したが、未だ出版されていない。必要に応じて早期出版を督促することになった。

・IEC61966-6「フロントプロジェクタの色彩特性測定方法」のメンテナンスに関する DC を発行することになった。

・新作業候補としてトムソン社(仏)から提案された色再現範囲のメタデータ ID についても前日のアドホック会議の議事が紹介された。

・将来の新作業候補として、ディスプレイの色再現範囲、色空間の色域などを評価するためのデジタルデータによるカラーチャートの提案を日本が検討中であることを報告した。

3．TC100 総会

・前日までの各 TA の審議結果等が報告された。TA2 からは、上記した 2 つのプロジェクトが順調であること、フランスから色再現範囲のメタデータ ID に関する新作業提案が予定されていることなどが報告された。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11(三井住友海上別館ビル)　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／TC100TA4-①**（事務局記入）

国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 12 月 4 日

（報告者記載）整理番号：H19TC100TA4⑤

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：陰山　惠　　報告書作成者氏名：　陰山　惠　（会社名）松下電器産業株式会社

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/TA4 (半角)
TA100/TA4	☐TC ☐SC ☒TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	デジタルシステムインタフェース&プロトコル
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2007 年 10 月 11 日 ～ 2007 年 10 月 11 日		
開催場所	（国名）フランス	（都市名）アルザス（コルマール）	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Ed Barrett	幹事国　韓国	
参加国及び参加人数	4ヶ国、主な国名　日本、韓国、UK、US 参加人数（9）		
日本人出席者（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○ 陰山　惠（松下電器産業）、由雄淳一（パイオニア）、古川雅通（ケンウッド）、江島直樹（松下電器産業）、原田　登（NTT）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

背景･目的

TA4 には日本から開発・改定提案中の規格案件が多数ある。（準備中含め７件）これらはいずれも日本が主導的に事業を推進しているＡＶ機器の重要なインターフェースとして使用が予定されている。早期規格改定の推進は日本国にとって非常に重要である。

成果

今回の会議で日本改定提案として特に重要なインタフェースである IEC 60958-3 に関して PL からサンプリング周波数の追加要求があること、MPEG-Surround 関連の改定要求があること、SMPTE に対してリエゾンレポートを発行する必要があること、等が報告され、プロジェクトの方向付けが確認された。SMPTE へのリエゾンレポートに関しては翌日の TC100 プレナリー会議にてＴＡＭより発行が提案され承認された。

また、今後改定作業に着手する IEC 61937-1、IEC 61937-2 に関して主にデータタイプに対する対応方針がＰＬ候補（日本）から報告され課題の共有化が行われた。また、日本から規格開発提案中の IEC 61937-10(MPEG4-ALS)（会議当時 100/1269/NP）の開発方針、課題が PL 候補より述べられ了承された。

その他現在規格開発、改定中のプロジェクトに関して状況・課題の共有化を図った。

さらに、TA のスコープ、リエゾン関係の見直しが行われたが特に変更はなかった。

また、 Stabilized Project の議論を行ったが、TA4 では該当プロジェクトはなかった。

問題点

特になし

次回開催

2008.11.10-14 TC100 Plenary 会議（サンパウロ）に合わせて実施予定。

[注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel:03-3518-6435　Fax:03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／TC100TA5-①**（事務局記入）

国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 11 月 0 日

（報告者記載）整理番号：H19TC100TA5②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：濵田　靖司　　報告書作成者氏名：　濵田　靖司　（会社名）NEC

出席会議名（半角）	区　分		組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/TA5 (半角)
PT-60728-13	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☒PT ☐その他			
TC100/TA5	☐TC ☐SC ☒TA ☐WG ☐PT ☐その他		名　称 (日本語)	ケーブルネットワーク
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他			
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2007 年 10 月 8 日 ～ 2007 年 10 月 12 日			
開催場所	（国名）フランス	（都市名）アルザス		
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	TA5 TAM Dr.Halme(Fin), PT60728-13Convener Mr.Matsumoto(JPN)	幹事国　フィンランド		
参加国及び参加人数	8ヶ国、主な国名 ﾌｨﾝﾗﾝﾄﾞ,ﾄﾞｲﾂ,ｲﾀﾘｱ,ﾌﾗﾝｽ,ﾃﾞﾝﾏｰｸ,ﾉﾙｳｪｲ,ﾄﾙｺ,日本、参加人数（13）			
日本人出席者（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○松本檀(日本ケーブルラボ)、 ○松本卓三(古河電気工業株式会社)、○山口辰男(東芝), ○濵田靖司(NEC)			

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1.PT 60728-13 会合の主な内容

東京会議(2007.7)アクションアイテム結果を盛り込んだ WD に基づき詳細内容の審議を行った。検討の中で新たに追加すべき内容として以下の項目が提案された。

①Triplexer の記述追加、②GEPON スペクトルと単一周波数妨害、③ラマンクロストーク、④1心3波方式とその他の方式、⑤セクション CN 比記述の追加、⑥環境条件、⑦CN 比測定に Power 測定法を加えることの是非、⑧RIN 測定法詳細、⑨NTSC 以外の放送方式の取込み、⑩変調度規定、⑪全体 CN 比配分。

今後の活動の指標としてコルマールアクションアイテム(PT-13 COL WD 03)を整理し改定文書(PT-13 COL WD 04)をエキスパートへ配布することとした。

2. TC100/TA5 会合の主な内容

・TC100/AGM/AGS より SBP(Strategic Business Plan)の策定が求められ、そのドラフトを作成した。

・TA5 のテクニカル・アクティビティとして、①ケーブルネットワークにおける上り帯域の拡大（55MHz から 85MHz へ）、②下り帯域の拡大（衛星(BS/CS)の IF 信号(1～3GHz)のパススルー）の実用化、③エッジ QAM（Edge-QAM）の採用などトレンドについて意見交換した。

・TA5 の各 PT/MT の状況（以下アクティブなところを以下に記載）；

60728-1（下りシステム性能）：2007.9.10 に Ed4.0 発行。下記2点新規 MT 設立の提案があった。
60728-1-1 双方向ホーム RF ケーブルネットワーク、60728-1-2 システムアウトレットでの性能要求条件

60728-2（機器の EMC）：CDV を 2008 年1月, FDIS を同年9月, IS を同年 10 月完成目標で進める予定。

60728-3（能動機器）：メンテナンス開始が確認された。(DC 文書 2007 年8月に発行済)

60728-6（光機器）：昨年のベルリン会議にて 2009 年にメンテナンス可否を確認することとなっていたが、Part13 との連携の必要性からメンテナンスを開始することとなった。

60728-7 シリーズ（HFC 屋外施設のステータスモニタ）：Part7-3 についてメンテナンス開始を準備中。

60728-11 （安全）：2007-10-09 に MT 会議を実施。雷撃可能性のある箇所へのアンテナ設置について議論中。

・今後の予定

次回 TA5 の PTs & MTs 会合はブラジルサンパウロで、2008 年 11 月に計画されている。また MT60728-11 と PT60728-13 の合同会議が 2008 年5月に予定された。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／TC100TA6-①**（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007年12月10日

（報告者記載）整理番号：H19TC100TA6①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：向井　幹雄　　報告書作成者氏名：　野谷　正明　（会社名）松下電器産業(株)

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/TA6 (半角)
TC100/TA6	☐TC ☐SC ☒TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	放送・業務用ストレージ
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2007年10月8日 ～ 2007年10月12日		
開催場所	（国名）フランス国	（都市名）アルザス	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	野谷　正明	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	6ヶ国、主な国名 アメリカ、イギリス、日本、参加人数（10）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA電子)] ○野谷(松下電器)、○向井(ソニー)、○鈴木(ソニー) 江崎(ソニー)、香西(ソニー)、杉崎(ソニー)、松下(シャープ)		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

目的

現行のProjectの進捗確認と、今後の進め方、問題点を検討すると共に、TA6の将来展望を検討する。

成果

1, PT 62447-1, -2, -3 D-12 フォーマットの現状確認を行った。
2, PT 62261 メタデーターディクショナリーの現状確認と、問題点を検討した。
　特に、Dictionaryの処置プロセス、アクセス費用の処置、Databaseの同期化の具体策等について、
　具体的な対応策を見出し、実行計画を策定した。
3, 新プロジェクトについての検討として、PT60461規格の改定について、背景、時期、内容、などについて
　検討し、具体的な実施計画を立案、決定した。
4, SMPTEtoEBUのJoint task forceで検討中のNew time codeのIECとしての取り組みについて、意見交換を行い当面
　の方針を決定した。
5, GMTへ移行させるProjectならびにスタビライズする規格について確認し、AGMへの提案を準備した。
6, Liaison関係にあるSMPTEならびにISO/IEC JTC 1/SC 23の概況を報告しあい、対応を検討した。

問題点

WEB siteを利用するMetadataのdictionaryのアクセス料については、IEC中央事務局の最終判断が待たれている。

[注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-11(三井住友海上別館ビル)　Tel:03-3518-6435　Fax:03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／TC100TA7-①**（事務局記入）

国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 10 月 14 日

（報告者記載）整理番号：H19TC100TA7①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：向井幹雄　報告書作成者氏名：香西俊範　（会社名）ソニー株式会社

出席会議名（半角）	区分	組織番号（TC/SC/TA）	TC100/TA7（半角）
TC100/TA7	☒TC ☐SC ☒TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称（日本語）	オーディオ、ビデオ、マルチメディアシステム及び機器／民生用ストレージ
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2007 年 10 月 8 日 ～ 2007 年 10 月 12 日		
開催場所	（国名）フランス	（都市名）アルザス	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	向井　幹雄	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	2ヶ国、主な国名 日本、英国、参加人数（11）		
日本人出席者名（会社名）	［○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎（JEITA 電子）］ 向井幹雄（ソニー）、江崎正（ソニー）、由雄淳一（パイオニア）、○香西俊範（ソニー）、野谷正明（松下）、鈴木輝彦（ソニー）、杉崎公宣（ソニー）、松下剛士（シャープ）、松村秀一（富士通）、榊原宏紀（富士通）		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄ご改行しながら最大28行まで記入できます。）

1）前回議事録（100-TA7_minutes_2006-09-27）は異議無く承認された。

2）PT61834-11 HDV format について香西 PL より進捗報告があった。CDV vote が終了し、反対、コメントとも無く、RVC（2007-10）、IS（2008-01）へ進むことが承認された。

3）規格の見直しに関しては Maintenance list が確認され、TC100 Secretariant への提出が承認された。

4）将来のプロジェクトに関する情報として、由雄委員より iVDR が紹介された。iVDR は iVDR Hard Disk Drive consortium によって規格化されており、同 consortium は NP を 2007 年中に作成し、どこで国際標準化するか検討中。

5）規格化進捗状況として、100/TA7(Alsace/TS)05 文書が確認され承認された。

6）リエゾン報告として、向井 TS により ISO/IEC JTC 1/SC23 の活動報告がなされた。TA7 として JTC 1/SC23 との協力体制をさらに強化することとした。

7）TA7 のタイトルとスコープについて現状を確認しこれを保持することが承認された。TA7 のアクションプランとして、（1）iVDR、（2）メモリーオーディオプレーヤーの測定方法、（3）半導体ビデオカメラレコーダ、の3点とした。

8）次回開催は 2008 年 11 月のブラジル（サンパウロ）での TC100 総会と同時開催の予定。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／TC100TA8-①**（事務局記入）

国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 12 月 18 日

（報告者記載）整理番号： H19TC100TA8①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：TC100/TA8　報告書作成者氏名：　松村秀一　（会社名）富士通（株）

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/TA8 (半角)
TC100/TA8	☐TC ☐SC ☒TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	マルチメディアホームサーバシステム
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2007 年 10 月 8 日 ～ 2007 年 10 月 12 日		
開催場所	（国名）フランス	（都市名）アルザス	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	松村　秀一	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	7ヶ国、主な国名 米国、韓国、中国、日本、オランダ、フランス、デンマーク、参加人数（13）		
日本人出席者名（会社名）	［○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)］ ○松村秀一(富士通)、○榊原(富士通)、○松下(シャープ)、江崎(ソニー)、平川(東芝)、		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

背景・目的

今回の会議はTA8会議としては2006年9月のベルリンに次ぐ会議となり，PT62295, PT62291, PT62224, PT62227の進捗状況の報告,PT62328,PT61925のメンテナンス関連、及び新しいプロジェクト1件の説明が主目的である。

1）現行PT

- PT62295: Common Communication protocol for generic linkage on heterogeneous networks(CCP),韓国NCとして最初のIS、BPUB 2007-09-13の状況
- PT62291:TR Application program interface for UDF based file systems ポーランドNCからのコメントを反映する作業が遅れ、DTR: 2008-1 Publication: 2008-7とし、承認された。
- PT:62224 Conceptual model for digital　rights management DEC 2007-9-26 の状況、APUBに向け作業中、
- PT:62227 Digital rights permission code CDV 2007-9-14 が配布され、2008-2-15 投票締め切り、今回のアルザス会議では投票に向け出席メンバへ、利用者、アプリレベルの視点でプレゼンを行った。　また、日本でcodeの一部を使用した実用ビジネスの紹介も行った。

2) メンテナンス

- IEC 62328 Ed.1.0　Interchangeable volume/file structure adaptation for broadcasting receivers　：　Maintenance result date: 2008-07
- IEC 61925 Ed.1.0　The vocabulary of home server　：Maintenance result date: 2008-09

それぞれの締め切り期限を確認した。

3) 新PT

- Conceptual model for domain management 100/1296/NP:

前回ポーランドでのAGSで紹介、new work item proposal を出すことを勧められ、2007-9-28に配布されたことを報告、新しいコンセプトであり、各国の意見を入手する目的でコンセプトを含め内容をプレゼンした。投票締め切りは2008年1月１１日。

4) 次回会議

2008年１１月ブラジル開催を報告した。

［注］: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／TC100TA10-①**（事務局記入）

国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 11 月 5 日

（報告者記載）整理番号：H19TC100TA10①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：向井幹雄　　報告書作成者氏名：　植村八潮　（会社名）東京電機大学

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/TA10 (半角)
TC100/TA10	☐TC ☐SC ☒TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	マルチメディア電子出版及び電子書籍
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2007 年 10 月 11 日 ～ 2007 年 10 月 11 日		
開催場所	（国名）フランス	（都市名）コルマール，アルザス	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	植村八潮	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	3ヶ国、主な国名 日本，米国，フランス、参加人数（8）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○植村八潮(東京電機大学)，向井幹雄(ソニー)，小町祐史(大阪工業大学)，○斎鹿尚史(シャープ)，矢田泰規(シャープ)		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄ご改行しながら最大28行まで記入できます。）

1．全体の概要

TA10は，電子出版及び電子書籍の標準化を担当しており，2006年9月にドイツのベルリンで第1回の会議が開催された。第2回の今回はIEC 62448にAnnex BとしてXMDFを追加するamendmentが提出されたことと，PT62524 (Reader's format)のCD案について，報告検討が行われ，さらに新規プロジェクトの検討を行った。

2．現行プロジェクトの活動状況報告

2.1　PT 62448　　ベルリン会議の議論に基づき，PLよりIEC 62448（Generic format）にAnnex BとしてXMDFを追加するamendment案が提出された。amendment案は投票に回っている。

2.2　PT 62524　　NP投票のコメント内容を受けて，PLによりPT 62524（Reader's format）のCD案が報告され，検討が行われた。特許関係を明らかにしてCDを事務局に提出することがPLに要請された。

3．新規プロジェクト

3.1　オーディオブック（Audio Book）　　NPは投票を待つ段階である。Ms. Hayesによってオーディオブックの仕様について簡単に報告があり，意見が交わされた。これらの意見は，NP投票に対してNCコメントとして提出されることになる。

3.2　電子辞書フォーマット（E-dictionary format）　　電子辞書フォーマットの市場動向と概要について，デモを交えて報告。TA10は，NP案の作成を要請した。

3.3　Proofreading Markup Language　　日本において専門家が作業草案を検討し準備中であると報告された。

3.4　電子書籍交換用ストレージメディア配布ガイドライン　　DTRをTC100事務局に提出することとした。

4．アクションプラン

SBP（Strategic Business Plan）に基づくTA 10 のアクションプランは，次の3項目とした。

・電子出版環境での校正ML
・電子書籍交換用ストレージメディア配布ガイドライン
・電子辞書フォーマット

5．次回の開催予定

2008年　ブラジルのサンパウロで11/10～14の予定（その後Plenaryで11/17～21と修正された）。

[注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-11(三井住友海上別館ビル)　Tel:03-3518-6435　Fax:03-3295-8727

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／TC110-①**（事務局記入）

様式 9

国際標準化対応支援委員会　御中

提 出 日：2007 年 12 月 12 日
予算番号：H19TC110 予算無①

国際会議日本開催
経費収支報告書

1. 組　　織：　番　号　　ＴＣ１１０
　　名　称（日本語）　フラットパネルディスプレイ
2. 会　議　名：　WG2（液晶）、WG4（PDP）（☒単独開催　☐同時開催）
　　☐ＴＣ　☐ＳＣ　☐ＴＡ　☒WG　☐ＰＴ　☐その他
3. 開 催 期 日：　2007 年 12 月 3 日 ～ 2007 年 12 月 4 日
4. 開 催 場 所：　札幌コンベンションセンター

単位:円

収入の部		支出の部	
科　目	金　額	科　目	金　額
国際標準化対応支援委員会	188,290 円	会議費	216,580 円
DD 標準化専門委員会	188,290 円	懇親会費	160,000 円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
合計（a）	376,580 円	合計（b）	376,580 円
		（a）－（b）	0 円

補助限度額:［会議出席者数（日本人登録メンバー10 人＋外国人 20 人）］×会議開催日数 2 日×1.5 万円＝900,000 円

補助請求金額　188,290 円
［補助基準・運用規定の補助率（50 %）。上限は 300 万円。］

以上の通り報告致します。

2007 年 12 月 12 日
申請責任者：　打土井　正孝

※本報告書は、**(様式4)「国際会議報告書」**に添付して下さい。

(TSC-06 様式 2007.9)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／TC110-②**（事務局記入）

国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 12 月 12 日

（報告者記載）整理番号：H19TC110 予算無①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：森本光孝　報告書作成者氏名：加藤　（会社名）シャープ

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC110（半角）
TC110/WG2	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
TC110/WG4	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他	名称 (日本語)	フラットパネルディスプレイ
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	
開催期日	2007 年 12 月 3 日 ～ 2007 年 12 月 4 日		
開催場所	（国名）日本	（都市名）札幌	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	WG2 石黒、WG4 篠田	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	6ヶ国、主な国名 日本、韓国、中国、オランダ、米国、参加人数（30）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎（JEITA 電子）] 石黒(シャープ)、森本(NEC 液晶テクノロジー)、依田(大塚電子)、加藤(シャープ)、芝原(富士フイルム)、篠田(広島大学)、安藤(松下電器産業)、打土井(パイオニア)、田中(松下電器産業)、大塚(日立製作所)、佐野(東洋大学)		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

WG2（液晶）、WG4（PDP）共に、9月の中国・広州以来の会議開催であり、IDW'07 札幌の直前に開催された。

1．WG2（6ヶ国・地域、15名、うち日本から5名が参加）

61747 シリーズの3プロジェクト（いずれも 2CD）の審議を進めた。

1)Part6-2: Measuring methods －Reflective：PL の Henzen 氏は今回は欠席、広州会議以降に集まったコメントを審議。SID'08 で発表予定の、日本の測定精度向上策の反映等について、PL と来年2月に打ち合わせの予定。

2)Part5-2: Visual inspection for AM LCD modules：広州以降のコメントを審議、PL・Kim 氏は審議結果を反映した改訂版を 12 月中に配布の予定。次ステップ CDV の発行期限は 2008 年4月。

3)Part6-3: Mortion artifact measurement methods：広州以降のコメントを審議。PL・Lee 氏提案の、測定実験のための韓国 ad hoc 会議について、日程や詳細内容の正式案内を要請。

次回は 2008 年5月に米国・ロサンゼルス、2008 年2月に韓国で ad hoc 会議の可能性。

2．WG4（5ヶ国、16名、うち日本6名が参加）

61988 シリーズ6プロジェクトの審議を進めた。

1)Part 2-3: Measuring methods – Quality：Colour difference 算定の新提案を Annex 化。CDV 締切 2008 年2月。

2)Part 2-4: Measuring methods – Visual Quality：動画解像度について議論。1CD へのコメント待ち、締切は 2008 年1月。

3)Part 3-2: Electrical interface：IEC-CO editor 指摘の editorial issue を審議。Part3 シリーズ共通の"interface"の概念を明確化、タイトルに盛り込むこととした。CDV 締切 は 2008 年1月。

4)Part 5: Generic specification：　CDV 結果（採択）とコメントを確認、PL は対応をまとめる。directive に即した構成の変更、reference 番号のチェックなどを行う。

5)[MC] Part 1: Terminology：“luminous efficacy”関連用語を明確にした。MCR と CD の目標は 2008 年の早い時期。

6)[MC] Part 2-1, 2-2: Measuring methods – Optical & optoelectrical：ビデオ信号消費電力測定の条件は IEC62087Ed.2 に整合する。MCR は今年末が目標。

次回開催は 2008 年5月に米国・ロサンゼルス、2008 年2月に韓国で ad hoc 会議の可能性あり。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／CISPR-①**（事務局記入）

国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 11 月 29 日

（報告者記載）整理番号：H19CISPR③

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：玉田正信　報告書作成者氏名：堀　和行　（会社名）ソニー(株)

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	CISPR SC-I (半角)
CISPR SC-I	□TC ☒SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称 (日本語)	マルチメディア機器等に関するEMC
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2007 年 9 月 17 日 ～ 2007 年 9 月 19 日		
開催場所	（国名）オーストラリア	（都市名）シドニー	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Martin Wright	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	32 ヶ国、主な国名 英国、フランス、イタリア、デンマーク、ドイツ、米国、参加人数（76）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 雨宮 不二雄(NTTアドバンストテクノロジ(株))、山口 高(日本IBM)、羽田 隆晴(財)日本品質保証機構)、長部 邦弘((株)電磁環境試験所認定センター)、田中 信昭(富士通アドバンストテクノロジ(株))、秋山 佳春(NTT 環境エネルギー研究所)、○堀 和行(ソニー(株))		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

背景：年1回の CISPR 総会がシドニー(オーストラリア)で開催された。SC-I(I 小委員会)は、放送受信機、AV 機器、IT 機器、およびマルチメディア機器のエミッション、イミュニティ規格の検討を行っている。主な決定事項を以下に示す：

(1) 複数測定法に対する扱い：IEC Directive の要請である「複数の試験方法を記述する場合は、規準（reference）を決めること」を理由に、各国メンバーに意見を募ったところ、賛成(条件付含め)が 12、反対 5 カ国となり SC-I として規準を決めることになった。これをうけ、CISPR 32 において基準測定法を決めるための条件として以下が提案され承認された：①1GHz 以下放射妨害：CISPR 16 の NSA を満足する試験サイト ②1GHz 以上：CISPR 16 の自由空間条件を満足する試験サイト ③有線ネットワークの伝導妨害波：測定法を選択するためのフローチャート ④電源線の伝導妨害波：代替測定法 1（擬似電源回路網、垂直基準大地面と高さ 80 cm の机を使用し、EUT を基準面から 40 cm の距離に設置)CISPR 35 は、WG4 シドニー会議にて放射イミュニティは IEC 61000-4--3 を規準とし、それ以外の測定要求は、08 年 2 月のコペンハーゲン(デンマーク)会議で審議する。CISPR 13、20、22、24 については、複数測定法の有無、規準となる測定法を次回 08 年 10 月の大阪会議までに検討する。

(2) SC-I の作業プログラムの確認：CISPR 32 はステージ 0 に戻し、平行して 3rd CD を添付した NP を発行し、CISPR 35 は CISPR 32 の状況をみてステージを判断する。また、それぞれの規格のメンテナンス日は、CISPR 13：2009 年 CISPR 20：2010 年 CISPR 22：2009 年 CISPR 24：2009 年であることが確認された。

(3) FDIS ステージへ進むことが合意されたプロジェクト：通信ポート伝導妨害波の Non-invasive(非侵襲)測定法の修正 CDV が 92%承認されたが、内容に技術的な問題点があったため解決方法等を示した DC を 12 月に発行し、FDIS を発行する（2008.12 月予定）。

(4) CD ステージのプロジェクト：①CISPR 32～11 月に 3rd CD を発行する予定であり、これが NP に添付される。②CISPR35～3 月あるいは 4 月に 2nd CD を発行する予定。③CISPR13～RMS 平均値検波器の CD に対するコメント収集が完了し、CC の作成をシドニー会議後に行う予定であることが報告された。

(5) 準備段階にあるプロジェクト：①PLT～Indoor-PLT と Outdoor-PLT の 2 つの CD 文書を準備中で、Indoor-PLT の CD はシドニー会議後に発行予定である。②CISPR 24～CD 草案が準備され、WG3 シドニー会議で審議後、回付する予定である。③CISPR 22～6 項目の変更内容が確認され、DC 文書化して 12 月に回付する。④CISPR 32 が発行された段階で、CISPR 13 及び CISPR 22 のメンテナンスサイクルを 5 年にする。CISPR 35 と CISPR 20、CISPR 24 も同様。

(6)今後の予定：08 年 10 月 20～29 日に大阪にて開催。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：**5-3／SC31-①**（事務局記入）

国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2000 年 12 月 13 日

（報告者記載）整理番号：H19SC31③、⑤

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：本田　邦夫　　報告書作成者氏名：　富岡　健　（会社名）富士通

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC31 (半角)
SC31/WG3/SG1 SC31/WG4/SG3	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☒その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☒その他	名　称 (日本語)	自動認識及びデータ取得技術
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2007 年 11 月 12 日 ～ 2007 年 11 月 14 日		
開催場所	（国名）フランス	（都市名）エクサンプロバンス	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	WG3/SG1：J.Pfluegl, WG4/SG3：S.Halliday	幹事国　米国	
参加国及び参加人数	12 ヶ国、主な国名 米国、イギリス、ドイツ、フランス、韓国、オーストリア、参加人数（45）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○富岡健(富士通)、渡辺淳(デンソーウエーブ)、○本澤純(日立)、吉岡稔弘(AI総研)		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1．WG3/SG1

・RFID の性能試験方法(ISO/IEC 18046Part1～3)及び、適合性試験方法(ISO/IEC 18047ｼﾘｰｽﾞ)について審議がおこなわれた。性能試験方法では、システム性能試験方法(part1)とリーダライタ性能試験方法(Part2)に関し、Ad-hoc group が組織され、ワーキングドラフトの作成が開始されることとなった。しかしながら、Part2 ではプロジェクトエディターが不在となっていることが問題であり、今後の審議進捗に影響が出る可能性が懸念される。適合性試験方法では、UHF-RFID の試験方法を規定している ISO/IEC18047-6REV1 の投票解決審議が行われ、日本から修正要求した３つのコメントは全て受け入れられた。また、これまで審議が遅延していた 433MHz 帯のアクティブタグに関する適合性試験方法では、ISO/IEC18047-7REV1 のワーキングドラフト作成の Ad-hoc が組織され、プロジェクトエディターが決定された。更に、New Work Item として提起されていた RTLS(Realtime Locating System)の性能試験方法(ISO/IEC24770)と適合性試験方法(ISO/IEC24769)について審議をし、PDTR 投票へと進めることが承認された。

2．WG4/SG3

・RFID のエアーインタフェース規格に関する改訂要求に対して、現在改訂審議が行われている。今回は、9 月から 10 月にかけて改訂ドラフトの投票が複数件行われ、それらに対するコメント等への BRM（Ballot Resolution 会議）が中心であった。会議において ISO/IEC 18000-6 Type C の元となった規格を策定した標準化団体である EPCglobal 側から、ISO 規格化審議において、改変を認めないとの主張があり、今後の審議の進め方について、国際的に議論していく必要がある。

・ISO/IEC 18000-1 に関して、各国のコメントを解決し、FCD 投票に進めることになった。

・ISO/IEC 18000-4 に関して、各国のコメントを解決し、FDIS 投票に進めることになった。

・ISO/IEC 18000-6 に関して、AdHoc 会議にて、2nd CD 投票の BRM を行うことになった。また、18 ヶ月の改定延長を要請することになった。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727